

(様式第10)

7医大病第722号
令和7年10月3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人福島県立医科大学
理事長 竹之下 誠一

公立大学法人福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
氏名	公立大学法人福島県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
電話(024)547-1821

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input type="checkbox"/> 1呼吸器内科	<input type="checkbox"/> 2消化器内科	<input type="checkbox"/> 3循環器内科	<input type="checkbox"/> 4腎臓内科
<input type="checkbox"/> 5神経内科	<input type="checkbox"/> 6血液内科	<input type="checkbox"/> 7内分泌内科	<input type="checkbox"/> 8代謝内科
<input type="checkbox"/> 9感染症内科	<input type="checkbox"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="checkbox"/> 11リウマチ科
診療実績			
5神経内科→脳神経内科			
9感染症内科→内科			
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科→呼吸器内科、リウマチ科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病内科	2	漢方内科	3	腫瘍内科	4	形成外科	5	小児腫瘍内科
6	病理診断科	7	リハビリテーション科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49	2	14	-	713	778

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	391	250	517.31	看護補助者	92	診療エックス線技師	0
歯科医師	4	9	10.007	理学療法士	15	臨床検査技師	83
薬剤師	49	1	49.774	作業療法士	6	臨床検査 衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	11	その他	0
助産師	41	3	43.6	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	805	22	818.7	臨床工学士	20	医療社会事業従事者	6
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	16
歯科衛生士	3	3	3	歯科技工士	0	事務職員	172
管理栄養士	7	0	7	診療放射線技師	51	その他の職員	39

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	69	眼科専門医	10
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	5	放射線科専門医	9
小児科専門医	26	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	25
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	19
産婦人科専門医	10	救急科専門医	13
		合計	258

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大平 弘正) 任年月日 令和 7 年 4 月 1 日

<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年10月～平成28年3月 医療クオリティ審議委員会 委員 ・平成25年10月～平成28年3月 医事紛争対策専門委員会 委員 ・平成25年11月～平成28年3月 医療事故防止対策委員会(R2.1医療安全管理委員会に名称変更) 委員長 ・令和7年4月～ 医療安全管理委員会委員 ・令和7年4月～ 医療クオリティ審議委員会 委員 ・令和7年4月～ 医事紛争対策専門委員会 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	584.6 人	8.0 人	592.5 人
1日当たり平均外来患者数	1506.2 人	42.5 人	1548.7 人
1日当たり平均調剤数	1030.8		剤
必要医師数	148.3		人
必要歯科医師数	4		人
必要薬剤師数	20		人
必要(准)看護師数	349		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
			病床数	人工呼吸装置	その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
集中治療室	282.89 ㎡	鉄筋コンクリート	12 床	有	有	有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	311.85	㎡	病床数	26 床	
	[移動式の場合]	台数	4	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	42.3				㎡
	[共用室の場合]	共用する室名					
化学検査室	1274.8 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	トキシノメーター・全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	125.49 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動血液培養・抗酸菌培養装置			
病理検査室	39.59 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ウルトラマイクローム、感染防止対策用凍結マイクローム			
病理解剖室	143.62 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	滅菌機			
研究室	112.54 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ウルトラマイクローム、電子顕微鏡			
講義室	522.7 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	422 人	
図書室	1954 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	22万2000 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.1	%	逆紹介率	84.6	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,280 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,896 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,107 人		
	D: 初診の患者の数		14,056 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
今野 修	福島県医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
安倍 孝祐	弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
山口 克彦	国立大学法人福島大学		医療を受ける者、その他医療従事者以外の者	有	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにおいて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0件
扱い患者数の合計(人)	0人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	144
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症	201
3	脊髄性筋萎縮症	13	58	肥大型心筋症	143
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	104
6	パーキンソン病	336	61	自己免疫性溶血性貧血	61
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	17
8	ハンテントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	181
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	10
10	シャルコー・マリー・トゥース病	14	65	原発性免疫不全症候群	13
11	重症筋無力症	170	66	IgA腎症	407
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	137	68	黄色靱帯骨化症	127
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	44	69	後縦靱帯骨化症	203
15	封入体筋炎	14	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クローウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	1
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	79	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	36
21	ミトコンドリア病	13	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	50	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	2
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	76
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	2
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	22	83	アジソン病	29
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	317
30	遠位型ミオパチー	4	85	特発性間質性肺炎	59
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	104
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	4
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	
34	神経線維腫症	96	89	リンパ脈管筋腫症	6
35	天疱瘡	134	90	網膜色素変性症	6
36	表皮水疱症	8	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	20	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	129
39	中毒性表皮壊死症	4	94	原発性硬化性胆管炎	26
40	高安動脈炎	44	95	自己免疫性肝炎	149
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	179
42	結節性多発動脈炎	49	97	潰瘍性大腸炎	374
43	顕微鏡的多発血管炎	95	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	81	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	39	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	20	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	9	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	456	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	268	105	チャージ症候群	3
51	全身性強皮症	137	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	65	107	若年性特発性関節炎	19
53	シェーグレン症候群	606	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	44	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	13	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	4	166	弾性線維性仮性黄色腫	8
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		167	マルファン症候群	35
113	筋ジストロフィー	44	168	エーラス・ダンロス症候群	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		169	メンケス病	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		170	オクシピタル・ホーン症候群	
116	アトピー性脊髄炎		171	ウィルソン病	3
117	脊髄空洞症	43	172	低ホスファターゼ症	
118	脊髄髄膜瘤	32	173	VATER症候群	1
119	アイザックス症候群		174	那須・ハコラ病	
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	
121	神経フェリチン症		176	コフィン・ローリー症候群	
122	脳表ヘモジドリン沈着症	2	177	ジュベール症候群関連疾患	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		178	モワット・ウィルソン症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	179	ウィリアムズ症候群	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		180	ATR-X症候群	
126	ペリー症候群		181	クルーゾン症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	2	182	アペール症候群	2
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	2	183	ファイファー症候群	
129	痙攣重積型(三相性)急性脳症	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	
130	先天性無痛無汗症		185	コフィン・シリズ症候群	
131	アレキサンダー病	1	186	ロスマンド・トムソン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		187	歌舞伎症候群	3
133	メビウス症候群		188	多脾症候群	9
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	3	189	無脾症候群	11
135	アイカルディ症候群	1	190	鯉耳腎症候群	
136	片側巨脳症		191	ヴェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成		192	コケイン症候群	
138	神経細胞移動異常症		193	ブラダー・ウィリ症候群	4
139	先天性大脳白質形成不全症	1	194	ソトス症候群	2
140	ドラベ症候群	6	195	ヌーナン症候群	7
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	196	ヤング・シンプソン症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん		197	1p36欠失症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		198	4p欠失症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	5	199	5p欠失症候群	
145	ウエスト症候群	24	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
146	大田原症候群	3	201	アンジェルマン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		202	スミス・マギニス症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		203	22q11.2欠失症候群	3
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	55	204	エマヌエル症候群	
150	環状20番染色体症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
151	ラスマッセン脳炎	2	206	脆弱X症候群	
152	PCDH19関連症候群		207	総動脈幹遺残症	2
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		209	完全大血管転位症	18
155	ランドウ・クレフナー症候群		210	単心室症	33
156	レット症候群	7	211	左心低形成症候群	14
157	スタージ・ウェーバー症候群		212	三尖弁閉鎖症	16
158	結節性硬化症	25	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	
159	色素性乾皮症	1	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	105
161	家族性良性慢性天疱瘡	5	216	両大血管右室起始症	40
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	98	217	エプスタイン病	5
163	特発性後天性全身性無汗症	10	218	アルポート症候群	6
164	眼皮膚白皮症	3	219	ギャロウェイ・モワット症候群	
165	肥厚性皮膚骨膜炎	2	220	急速進行性糸球体腎炎	66

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
221 抗糸球体基底膜腎炎	10	276 軟骨無形成症	2
222 一次性ネフローゼ症候群	3	277 リンパ管腫症/ゴーム病	3
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
224 紫斑病性腎炎	7	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	4
225 先天性腎性尿崩症		280 巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	281 クリップル・トレノネー・ウェーバー症候群	
227 オスラー病	11	282 先天性赤血球形成異常性貧血	
228 閉塞性細気管支炎	17	283 後天性赤芽球癆	
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	27	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
230 肺胞低換気症候群	8	285 ファンconi貧血	
231 α 1-アンチトリプシン欠乏症		286 遺伝性鉄芽球性貧血	
232 カーニー複合		287 エプスタイン症候群	1
233 ウォルフラム症候群		288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		289 クロンカイト・カナダ症候群	5
235 副甲状腺機能低下症	405	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	
236 偽性副甲状腺機能低下症	1	291 ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	26
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症		292 総排泄腔外反症	1
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	293 総排泄腔遺残	10
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		294 先天性横隔膜ヘルニア	12
240 フェニルケトン尿症		295 乳幼児肝巨大血管腫	
241 高チロシン血症1型		296 胆道閉鎖症	31
242 高チロシン血症2型		297 アラジール症候群	6
243 高チロシン血症3型		298 遺伝性膀胱炎	
244 メーブルシロップ尿症		299 嚢胞性線維症	
245 プロピオン酸血症		300 IgG4関連疾患	123
246 メチルマロン酸血症		301 黄斑ジストロフィー	55
247 イソ吉草酸血症		302 レーベル遺伝性視神経症	1
248 グルコーストランスporter-1欠損症		303 アッシャー症候群	2
249 グルタル酸血症1型		304 若年発症型両側性感音難聴	
250 グルタル酸血症2型		305 遷発性内リンパ水腫	1
251 尿素サイクル異常症	7	306 好酸球性副鼻腔炎	60
252 リジン尿性蛋白不耐症	1	307 カナバン病	
253 先天性葉酸吸収不全	1	308 進行性白質脳症	
254 ポルフィリン症		309 進行性ミオクローヌステんかん	2
255 複合カルボキシラーゼ欠損症		310 先天異常症候群	
256 筋型糖尿病		311 先天性三尖弁狭窄症	1
257 肝型糖尿病	1	312 先天性僧帽弁狭窄症	
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		313 先天性肺静脈狭窄症	
259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		314 左肺動脈右肺動脈起始症	1
260 シトステロール血症	1	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	
261 タンジール病		316 カルニチン回路異常症	
262 原発性高カイロミクロン血症	2	317 三頭酵素欠損症	
263 脳髄黄色腫症		318 シトリン欠損症	
264 無 β リポタンパク血症		319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
265 脂肪萎縮症	1	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
266 家族性地中海熱	48	321 非ケトーシス型高グリシン血症	
267 高IgD症候群		322 β -ケトチオラーゼ欠損症	
268 中條・西村症候群		323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	41	324 メチルグルタコン酸尿症	
270 慢性再発性多発性骨髄炎		325 遺伝性自己炎症疾患	2
271 強直性脊椎炎	44	326 大理石骨病	
272 進行性骨化性線維異形成症		327 特異性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
273 肋骨異常を伴う先天性側弯症		328 前眼部形成異常	1
274 骨形成不全症	18	329 無虹彩症	1
275 タナトフォリック骨異形成症	1	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャッスルマン病	3			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー				
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群				
334	脳クレアチン欠乏症候群				
335	ネフロン癆	3			
336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)				
337	ホモシステチン尿症	8			
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症				
339	MECP2重複症候群				
340	線毛機能不全症候群/カルタゲナー症候	1			
341	TRPV4異常症				

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	197件
合計患者数(人)	8,162人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療情報取得加算	・重症患者初期支援充実加算
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(7対1一般・結核・10対1・精神)	・呼吸ケアチーム加算
・臨床研修病院入院診療加算	・術後疼痛管理チーム加算
・救急医療管理加算1	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・バイオ後続品使用体制加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1、2(注2 薬剤業務向上加算)
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算
・医師事務作業補助体制加算1 15対1	・入退院支援加算1
・急性期看護補助体制加算 25対1(5割以上)(注2 夜間100対1急性期看護補助体制加算、注3 夜間看護体制加算、注4 看護補助体制充実加算1)	・入院時支援加算及び注4に規定する地域連携診療計画加算
・看護職員夜間配置加算 12対1配置加算1	・認知症ケア加算2
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1、2	・精神科急性期医師配置加算2
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)(密封小線源による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算及び注4に規定する個別栄養食事管理加算	・救命救急入院料3、4(注3救急体制充実加算1、注6小児加算)
・小児緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1(注1上限日数延長、注2小児加算、注4 早期離床・リハビリテーション加算)
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料5(注2小児加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1、2
・がん診療連携拠点病院加算(基幹型)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料1(注2保育士2名以上の場合、注5 無菌治療管理加算1・2)
・感染対策向上加算1(注2指導強化加算、注5抗菌薬適正使用体制加算)	・入院時食事療養費(Ⅰ)(食堂加算)
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料の注2に規定する加算	・がん治療連携計画策定料
・心臓ペースメーカー指導管理料注2に規定する植込型除細動器移行期加算	・認知症専門診断管理料2
・心臓ペースメーカー指導管理料注5に規定する遠隔モニタリング加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・高度難聴指導管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3に掲げる腎代替療法実績加算	・プログラム医療機器等指導管理料(高血圧症)
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・連携強化診療情報提供料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・医療機器安全管理料1、2
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	・精神科退院時共同指導料1、2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・救急患者連携搬送料
・糖尿病透析予防指導管理料	・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・一般不妊治療管理料	・持続血糖測定器加算
・生殖補助医療管理料1	・横隔神経電気刺激装置加算
・下肢創傷処置管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・院内トリアージ実施料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・外来放射線照射診療料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・造血器腫瘍遺伝子検査
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・遺伝子相同組換え修復欠損検査
・ニコチン依存症管理料	・染色体構造変異解析
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・Y染色体微小欠失検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・遺伝学的検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・染色体検査の注2に規定する基準(流産検体を用いた絨毛染色体検査)	・咀嚼能力検査
・先天性代謝異常症検査	・精密触覚機能検査
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・センチネルリンパ節生検(片側)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・画像診断管理加算3
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・遠隔画像診断
・検体検査管理加算(IV)	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・国際標準検査管理加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・遺伝カウンセリング加算	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・CT撮影及びMRI撮影
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・冠動脈CT撮影加算
・植込型心電図検査	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・外傷全身CT加算
・胎児心エコー法	・大腸CT加算
・ヘッドアップティルト試験	・心臓MRI撮影加算
・人工膵臓検査	・乳房MRI撮影加算
・皮下連続式グルコース測定	・小児鎮静下MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・単線維筋電図	・一般名処方加算1、2
・神経学的検査	・外来化学療法加算1
・補聴器適合検査	・無菌製剤処理料
・黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図	・心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算含む
・ロービジョン検査判断料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算含む
・コンタクトレンズ検査料1	・廃用症候群リハビリテーション料(I) 初期加算含む
・小児食物アレルギー負荷検査	・運動器リハビリテーション料(I) 初期加算含む
・内服・点滴誘発試験	・呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算含む
・口腔細菌定量検査	・がん患者リハビリテーション料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科口腔リハビリテーション料2	・椎間板内酵素注入療法
・リンパ浮腫複合的治療料	・緊急穿頭血腫除去術
・療養生活継続支援加算	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・救急患者精神科継続支援料	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・精神科作業療法	・脳血栓回収療法連携加算
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・医療保護入院等診療料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・硬膜外自家血注入	・角膜移植術(内皮移植加算)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・羊膜移植術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・人工腎臓	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
・人工膵臓療法	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。)	・網膜再建術
・ストーマ合併症加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・手術用顕微鏡加算	・人工中耳植込術
・口腔粘膜処置	・人工内耳植込術
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・植込型骨導補聴器移植術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・植込型骨導補聴器交換術
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・人工股関節置換術(手術用支援機器を用いるもの)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍を含む。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・気管支バルブ留置術	・補助人工心臓
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的大動脈遮断術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ダメージコントロール手術
・内視鏡下筋層切開術	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的冠動脈ステント留置術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁形成術	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・生体部分肝移植術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・同種死体肝移植術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下腓中央切除術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術	・胎児輸血術
・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外式膜型人工肺管理料
・同種死体腓移植術、同種死体腓腎移植術	・採取精子調整管理料
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・精子凍結保存管理料
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血適正使用加算
・同種死体腎移植術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・生体腎移植術	・コーディネート体制充実加算
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
・腹腔鏡下膀胱尿管逆流手術(膀胱外アプローチ)	・同種クリオプレシピレート作製術
・尿道狭窄グラフト再建術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・精巣温存手術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・精巣内精子採取術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯根端切除手術の注3	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算(高エネルギー放射線治療)	
・1回線量増加加算(強度変調放射線治療(IMRT)前立腺照射)	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・デジタル病理画像による病理診断	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・看護職員処遇改善評価料69	
・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	
・入院ベースアップ評価料95	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	右田 清志	リウマチ膠原病内科学講座	600,000	補 厚生労働省
自己炎症のメカニズムに立脚した成人スチル病の分子病態の解明	浅野 智之	リウマチ膠原病内科学講座	1,000,000	補 日本学術振興会
Fli-1によるフラクタルカインを介したSLE進展機構の解明と治療応用	佐藤 秀三	リウマチ膠原病内科学講座	1,200,000	補 日本学術振興会
Type2/Non-type2の両指標による喘息、COPD、ACOの増悪予測検討	鈴木康仁	呼吸器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
呼気硫化水素を用いた気管支喘息の難治化および増悪予測の検討	斎藤純平	呼吸器内科	1,600,000	補 日本学術振興会
重症呼吸器疾患の評価における間接熱量計から求めた肺の酸素消費量の有用性の検討	吉田 圭佑	集中治療部	200,000	補 日本学術振興会
高度肥満患者およびい痩患者におけるフェンタニルの血中・効果部位濃度予測	小原伸樹	手術部	1,100,000	補 日本学術振興会
うつが局所脳虚血後脳障害に与える影響	井上 聡己	麻酔・疼痛緩和科	600,000	補 日本学術振興会
血糖値が免疫細胞アポトーシス及びミトコンドリア膜電位に与える影響とその機序の解析	黒澤 伸	麻酔・疼痛緩和科	500,000	補 日本学術振興会
遷延性術後痛の発症リスクを術前に予測する	中野 裕子	麻酔・疼痛緩和科	600,000	補 日本学術振興会

腫瘍免疫を担う免疫細胞群の活性やサイトカイン産生能に対し制吐薬が及ぼす作用の解析	花山千恵	麻酔・疼痛緩和科	1,100,000	補	日本学術振興会
血管穿刺のリスクが少ない安全な星状神経節ブロック手法の開発	大石理江子	麻酔・疼痛緩和科	456,000	補	福島県立医科大学
静脈麻酔薬レミゾラムとプロポフォールを併用した新たな全静脈麻酔法の開発	石堂瑛美	麻酔・疼痛緩和科	456,000	補	福島県立医科大学
放射線治療と免疫チェックポイント阻害剤併用療法患者における腫瘍免疫学的解析	鈴木 義行	放射線治療科	1,040,000	補	日本学術振興会
放射線治療における攻守免疫を分子標的薬により増強するための研究	吉本 由哉	放射線治療科	910,000	補	日本学術振興会
脈絡膜血管3次元構造解析によるパキロイド疾患の脈絡膜新生血管発生病序の解明	石龍鉄樹	眼科	520,000	補	日本学術振興会
視神経炎における新規治療の探索	向井亮	眼科	130,000	補	日本学術振興会
ARMS2遺伝子変異による眼内補体活性化の機構解明	加藤寛	眼科	910,000	補	日本学術振興会
セシウムのケロイド治療薬としての可能性を探る。ー線維芽細胞増殖抑制効果の機序解明	小山 明彦	形成外科学講座	700,000	補	日本学術振興会
トロンボモジュリン欠損患者iPS細胞から成熟分化細胞の確立と機能解析及び患者還元	本田剛一	血液内科	1,700,000	補	日本学術振興会
アスタチン-211標識ヒト・キメラCD82抗体による難治白血病に対する治療法の開発	池添隆之	血液内科	4,407,015	補	日本学術振興会

骨髄増殖性腫瘍におけるSH2B3変異が寄与する骨髄線維化進展機序の解明と新規治療戦略の開発への助成	小山大輔	血液内科	1,450,134	補	武田科学振興財団
腰部脊柱管狭窄で認める腹圧負荷時馬尾運動の病態生理についての画像医学的研究	山國遼	放射線医学講座	2,340,000	補	日本学術振興会
single-energy CTを用いた遅延造影定量による心アミロイドーシスの新規診断法の開発	関野啓史	放射線医学講座	4,680,000	補	日本学術振興会
心不全におけるクローン性造血の包括的理解とエクソソームを介した治療応用	竹石恭知	循環器内科学講座	5,100,000	補	日本学術振興会
クローン性造血から着想する心臓骨髄連関を介したHFpEFの分子病態機構	小河原峻	循環器内科学講座	900,000	補	日本学術振興会
液性因子と肺動脈周囲マクロファージ:肺高血圧症における新たなメカニズムの解明	西浦司人	循環器内科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
静脈血栓症の新規治療標的としてのクローン性造血/JAK2-ALK1 axisの意義解明	君島勇輔	循環器内科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
がん-心不全増悪連関をもたらす液性因子の解明	及川雅啓	循環器内科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
好中球細胞外トラップを介した心臓ロバストネス制御と心不全の新規治療法の開発	市村祥平	循環器内科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
心血管疾患におけるクローン性造血加速因子としてのDNA損傷の役割の解明	石田隆史	循環器内科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
心不全と多臓器連関(心-腎-肝-腸-脳-骨格筋連関)における腸内細菌叢の関与	義久精臣	循環器内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会

肺高血圧の進展メカニズムの多様性に関する検討 ークローン性造血(CHIP)の関与ー	中里和彦	循環器内科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
N-ミリストイル化を介したオートファジー制御機構の解明と新しい心不全治療法の開発	富田湧介	循環器内科学講座	800,000	補	日本学術振興会
ヒストンセロトニン化による新規エピジェネティック制御を介した心不全の分子機構	三阪智史	循環器内科学講座	800,000	補	日本学術振興会
リンパ系に着目した肺高血圧症の新たな分子機構の解明と治療法の開発	横川哲朗	循環器内科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
心不全におけるFKBP5のエピジェネティクスを基軸とした炎症制御機構の解明	和田健斗	循環器内科学講座	600,000	補	日本学術振興会
心不全によるがん進行・転移促進の機序の解明:交感神経による免疫寛容制御の視点から	谷哲矢	循環器内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
心房細動における“epicardial connection”の病態的意義の検討	金城貴士	循環器内科学講座	400,000	補	日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症の内皮間葉分化転換におけるDNA損傷応答とTGF- β の役割	杉本浩一	循環器内科学講座	700,000	補	日本学術振興会
心肝連関を標的とした革新的エクソソームの基盤創出	竹石恭知	循環器内科学講座	3,400,000	補	日本学術振興会
HFpEFにおけるArterial stiffnessーうっ血・低灌流の関係性の解明と層別化の試み	佐藤悠	循環器内科学講座	1,900,000	補	日本学術振興会
Tubulinの脱チロシン化に着目した心不全の新規治療戦略	三浦俊輔	循環器内科学講座	2,700,000	補	日本学術振興会

アントラサイクリン心筋症における核DNA損傷応答とミトコンドリアのクロストーク	磯松大介	循環器内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
アンモニアPET/MRI画像を用いた機械学習による左室内血流動態AI予測モデルの開発	遠藤圭一郎	循環器内科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
Shear StressとEFNA1に着目した動脈硬化進展における新たなメカニズムの解明	赤間浄	循環器内科学講座	900,000	補	日本学術振興会
マクロファージの分化増殖機構に着目した肺高血圧症治療法の開発	佐藤彰彦	循環器内科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症とclonal hematopoiesis of indeterminate potentialの関連性の解明	武藤雄紀	循環器内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
DNA損傷からみた小児がん治療関連心機能障害発症のメカニズム探索と予知の試み	八重樫大輝	循環器内科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
骨代謝による心制御システムの可能性 低カルボキシル化オステオカルシンと心不全予後	阿部諭史	循環器内科学講座	400,000	補	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症の進行におけるCalcioprotein particleの役割	安齋文弥	循環器内科学講座	800,000	補	日本学術振興会
CKDを有するHF _r EF患者におけるカロリー制限による抗加齢効果	大原妃美佳	循環器内科学講座	456,000	補	福島県立医科大学
質の高いDurable PVIをめざしたアプローチの確立:心外膜脂肪の心房筋焼灼への影響	山田慎哉	循環器内科学講座	456,000	補	福島県立医科大学
末梢動脈疾患患者における内因性線溶の機能	清水竹史	循環器内科学講座	456,000	補	福島県立医科大学

右心不全に対する治療戦略の確立	横川哲朗	循環器内科学講座	1,000,000	補	福島県立医科大学
特発性心筋症の診断・ゲノム情報利活用に関する調査研究	竹石恭知	循環器内科学講座	300,000	補	厚生労働省
JAK2V617F関連免疫血栓を標的とした血栓性疾患の新規治療戦略	三阪智史	循環器内科学講座	1,000,000	補	先進医薬研究振興財団
マクロファージ肺動脈周囲浸潤機構の肺高血圧症における意義	横川哲朗	循環器内科学講座	2,000,000	補	循環器学研究振興基金
細胞外マトリックス蛋白による肺高血圧症発症メカニズムの解明	横川哲朗	循環器内科学講座	2,000,000	補	日本心臓財団
肺癌治療におけるferroptosisの意義	尾崎有紀	呼吸器外科	260,000	補	日本学術振興会
MTAP遺伝子欠失をもつ大腸癌の癌微小環境における免疫細胞の活性化機序の解明	濱田和幸	呼吸器外科	1,300,000	補	日本学術振興会
がん免疫療法の効果を高める老化細胞除去療法の開発	武藤哲史	呼吸器外科	520,000	補	日本学術振興会
三次リンパ様構造を治療標的とした新規がん免疫療法の開発	福原光朗	呼吸器外科	1,170,000	補	日本学術振興会
非小細胞肺癌のHER3を標的とした ²¹¹ Atによる免疫放射線療法の開発	高木玄教	呼吸器外科	1,300,000	補	日本学術振興会
肺癌の3次リンパ様構造を標的とした高精度バイオマーカーと革新的免疫療法の開発	鈴木弘行	呼吸器外科	456,000	補	福島県立医科大学

肺内細菌叢に着目した三次リンパ様構造(TLS)構築のメカニズム解析	鈴木弘行	呼吸器外科	456,000	補	福島県立医科大学
非小細胞肺癌における腫瘍内細菌叢と転移・再発との関連	渡部晶之	呼吸器外科	456,000	補	福島県立医科大学
未治療進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するABCP (Atezolizumab+Bevacizumab+Carboplatin+Paclitaxel)療法の日本人における有効性、忍容性の検討及びMicrobiotaによるバイオマーカーの探索	鈴木弘行	呼吸器外科	0	委	昭和大学
完全切除された非小細胞肺癌に対する術後化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第Ⅱ相試験	岡部直行	呼吸器外科	122,640	委	東京大学
高齢者完全切除Ⅱ/Ⅲ期非小細胞肺癌に対するAtezolizumab術後補助療法の臨床第Ⅱ相試験 (LOGIC2301)	武藤哲史	呼吸器外科	0	委	一般社団法人九州臨床研究支援センター
病理病期IA2-ⅡA期EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における術後補助療法の実態を調査する多施設共同前向き観察研究 (PATHFINDER) (WJOG17123L)	鈴木弘行	呼吸器外科	0	委	特定非営利活動法人西日本がん研究機構
がん免疫療法耐性固形がんに対する高食物繊維摂取下での免疫チェックポイント阻害剤の有効性の検証	濱田和幸	呼吸器外科	0	委	昭和大学
嚥下障害診療における深層学習を用いた嚥下内視鏡検査AI診断補助システムの開発	今泉光雅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,600,000	補	日本学術振興会
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	今泉光雅 (分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000,000	補	厚生労働省
同種免疫反応を起点とした抑制性がん微小環境の克服および抗腫瘍免疫誘導機序の解明	望月一弘	小児腫瘍内科	800,000	補	日本学術振興会
小児がんに対する化学療法後の認知機能障害の病態解明と新規予防・治療法の開発	高橋信久	小児腫瘍内科	465,000	補	福島県立医科大学

乳癌におけるER分解制御因子NEDD4-1の生物学的機能と治療効果との相関性	佐治重衡	腫瘍内科学講座	1,170,000	補	日本学術振興会
細胞内シグナル伝達阻害薬が内分泌療法耐性乳癌の治療感受性を回復させる機序の解明	徳田恵美	腫瘍内科学講座	400,000	補	日本学術振興会
癌免疫療法により生じる免疫関連有害事象の発症予測マーカーの確立	名取 穰	腫瘍内科学講座	910,000	補	日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍(MPN)の病態解明:心血管系合併症とAML進展への対策	池田和彦	輸血・移植免疫部	1,000,000	補	一般社団法人日本血液学会
進行・再発胃癌における放射線治療と抗PD-1療法を用いた複合がん免疫療法の開発	三村耕作	輸血・移植免疫部	2,043,220	補	日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍が急性白血病に転化する機序と予防的治療法の解明	植田航希	輸血・移植免疫部	1,127,840	補	日本学術振興会
Non-genetic因子に着目した前白血病幹細胞から白血病幹細胞への進化機構の解明	植田航希	輸血・移植免疫部	2,000,000	補	高松宮妃癌研究基金
単細胞クローン追跡による、前白血病病変から急性白血病への進展機序の解明と進展を予防する治療の開発	植田航希	輸血・移植免疫部	2,727,273	補	武田科学振興財団
前白血病病変から急性白血病への進行に関わるnon-geneticな因子の検索(令和5年度から)	植田航希	輸血・移植免疫部	14,764	補	日本白血病研究基金
前白血病クローンの経時的追跡による白血病の病態解明(令和4年度から)	植田航希	輸血・移植免疫部	136	補	公益財団法人アステラス病態代謝研究会
前白血病から急性骨髄性白血病への進行をきたす分子機構の解明と先制治療法の開発	植田航希	輸血・移植免疫部	3,000,000	補	内藤記念科学振興財団

細胞バーコードと単細胞RNAシーケンスの併用による白血病クローンの経時的追跡	植田航希	輸血・移植免疫部	1,374,299	補	安田記念医学財団
前白血病から急性白血病への進行に寄与するnon-genetic因子の解明	植田航希	輸血・移植免疫部	5,000,000	補	上原記念生命科学財団
ポドサイト障害におけるアンギユリンの役割の解明	東 淳子	腎臓高血圧内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
新規糖尿病サブクラスの病態解明: 遺伝基盤を背景にした食行動・身体活動性変容の機序	島袋充生	糖尿病内分泌代謝内科	1,300,000	補	日本学術振興会
糖尿病クラスター分類における腎周囲脂肪の意義: 糖尿病性腎臓病の新たなリスク要因	田辺隼人	糖尿病内分泌代謝内科	600,000	補	日本学術振興会
腎酸化ストレスに対するカナグリフロジンの潜在的な抗酸化作用の解明	堀田彰一郎	糖尿病内分泌代謝内科	1,100,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡研究	島袋充生	糖尿病内分泌代謝内科	200,000	委	厚生労働省
211At-PSMAリガンドの唾液腺集積機序の解明と治療応用に関する研究	織内 昇	核医学科	11,180,000	補	日本学術振興会
福島復興を加速する多機関連携によるRI医薬品の開発	織内 昇	核医学科	300,003,000	委	福島国際研究教育機構
線量評価による内分泌腫瘍に対する核医学治療の高度化	織内 昇	核医学科	300,000	補	山口内分泌疾患研究振興財団
補体及び三次リンパ組織を介した自己免疫に起因する前立腺肥大症増殖機序の解明	秦淳也	泌尿器科学講座	3,500,000	補	日本学術振興会

骨盤神経損傷に伴う低活動膀胱へのcAMP/PKA/CREB経路を介した軸索再生機序の解明	今井仁美	泌尿器科学講座	3,300,000	補	日本学術振興会
Neopentyl-glycol構造を有する新規PSMAリガンドを用いたアスタチン α 線療法の開発	星誠二	泌尿器科学講座	3,600,000	補	日本学術振興会
利尿適応性の排尿中枢神経制御機構の解明と過活動膀胱の病態個別化への応用	松岡香菜子	泌尿器科学講座	3,600,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢による補体を介した前立腺肥大症増殖機構の解明と免疫学的治療の開発	滝浪瑠璃子	泌尿器科学講座	3,600,000	補	日本学術振興会
膀胱癌における治療誘導性細胞老化の機序の解明と老化細胞を標的とした新規治療の開発	目黒了	泌尿器科学講座	3,500,000	補	日本学術振興会
前立腺癌に対する新規Neopentyl-glycol(NpG)-PSMAリガンドによるAstatine-211(^{211}At) α 線内用療法の開発	星誠二	泌尿器科学講座	500,000	補	社)日本泌尿器科学会
新規バイオバンク構築とゲノムワイド関連解析による膀胱尿管逆流発症関連遺伝子の探索	秦淳也	泌尿器科学講座	800,000	補	公益財団法人川野小児医学奨学財団
ロボット支援前立腺全摘除術(RARP)における ^{68}Ga PSMA11-PET/MRI定量的病変マッピングに基づく手術支援方法の構築	星誠二	泌尿器科学講座	1,000,000	補	一般社団法人日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会
PSMAを標的とした新規放射線リガント治療薬 ^{211}At -Neopentyl-glycol(NpG)-PSMAの効果最大化のための副作用低減戦略の構築	星誠二	泌尿器科学講座	1,000,000	補	公益財団法人前立腺研究財団
R6放射性健康管理・健康不安対策事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)福島県内における東日本大震災前後の停留精巣患者数の実態調査	小島祥敬	泌尿器科学講座	2,107,353	委	環境省

AMED代表(橋渡し)ワイヤレス給電を活用した低侵襲植込み型クローズドループ仙骨神経刺激装置の開発	小島祥敬	泌尿器科学講座	7,739,680	委	AMED国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AMED分担(慶應義塾大学)先天性リポイド副腎過形成症の診療ガイドライン作成に向けた患者レジストリ構築とリアルワールドエビデンス創出研究	小島祥敬	泌尿器科学講座	650,000	委	AMED国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	研究代表者:朝比奈 昭彦 研究分担者:藤井正純	脳神経外科学講座 (東京慈恵会医科大学)	1,000,000	補	厚生労働省
糖蛋白を標的とした神経線維腫症2型に対する新規治療開発	藤井 正純	脳神経外科学講座	600,000	補	日本学術振興会
眼球・視線情報による次世代覚醒下手術モニタリング法の開発	蛭田 亮	脳神経外科学講座	2,000,000	補	日本学術振興会
The role of ST6GAL2 and GM3 synthase dysregulation in the pathogenesis of Medulloblastoma. An in-vitro study.	ムダシル サルマン イスマイル バキット	脳神経外科学講座	800,000	補	日本学術振興会
グリオーマの診断マーカー実用化に向けた研究開発	藤井 正純	脳神経外科学講座	13,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平弘正	消化器内科学講座	280,000	補	日本学術振興会
自己免疫性肝炎における新規自己抗体の網羅的解析	大平弘正	消化器内科学講座	400,000	補	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝疾患における「うつ」と運動療法の新展開	高橋敦史	消化器内科学講座	700,000	補	日本学術振興会
口腔・腸内細菌と濾胞性ヘルパーT細胞を標的とした自己免疫性肝炎の病態解明	阿部和道	消化器内科学講座	996,749	補	日本学術振興会

間葉系幹細胞由来エクソソームとシングルセル解析による自己免疫性肝炎の新規治療開発	阿部和道	消化器内科学講座	1,600,000	補	日本学術振興会
補体受容体C3ARが膵癌の腫瘍免疫に及ぼす影響の検証と治療応用	鈴木玲	消化器内科学講座	700,000	補	日本学術振興会
Macrophage inhibitorycytokine-1から展開する胆道癌診療のブレークスルー	杉本充	消化器内科学講座	700,000	補	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝疾患の病態におけるレクチン経路、第二経路の影響の解明	林学	消化器内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
腸管と脾臓のクロストーク～全身性疾病患としての炎症性腸疾患～	川島一公	消化器内科学講座	1,043,135	補	日本学術振興会
炎症性腸疾患における補体の影響の解明と新規抗補体薬の有効性	高住美香	消化器内科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
D-アミノ酸による自己免疫性膵炎の新規治療法の開発	佐藤雄紀	消化器内科学講座	900,000	補	日本学術振興会
大腸癌の腫瘍関連マクロファージに対する新規標的の検索	伊藤美郷	消化管外科学講座	500,000	補	日本学術振興会
食道癌における免疫チェックポイント阻害薬との併用療法としてベストな選択は何か？	門馬智之	消化管外科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
大腸鋸歯状発癌経路における腫瘍間質の役割	坂本渉	消化管外科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
進行・再発胃癌における放射線治療と抗PD-1療法を用いた複合がん免疫療法の開発	三村耕作	消化管外科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会

シングルセル解析を応用した大腸癌の糖鎖研究	山田玲央	消化管外科学講座	400,000	補	日本学術振興会
STING 経路を標的とした HER2 陽性胃癌の新規治療戦略	金田晃尚	消化管外科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
消化管癌における Nrf2 に伴う M2 腫瘍関連マクロファージの浸潤頻度増加機序の解明	松本拓朗	消化管外科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
放射線と Nivo 併用における Immunogenic cell death の検証	河野浩二	消化管外科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
TGF β が誘導する大腸癌微小環境を標的とした併用療法	岡山洋和	消化管外科学講座	800,000	補	日本学術振興会
大腸癌における VEGF receptor 2 を標的とした制御性 T 細胞の制御	花山寛之	消化管外科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
食道癌の免疫放射線療法における cGAS-STING 経路を介した腫瘍微小環境の制御	中嶋正太郎	消化管外科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
T-DXd が HER2 陽性胃癌における抗腫瘍免疫応答に及ぼす影響	芦澤舞	消化管外科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
バイオマーカーによる Stage II 大腸癌診療の個別化	氏家大輔	消化管外科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
がん性疼痛の脳内報酬系および腫瘍免疫応答に与える影響の解析	松本嘉寛	整形外科科学講座	5,700,000	補	日本学術振興会
ロコモの進行を予測するバイオマーカーの探索的研究	大谷晃司	整形外科科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会

高悪性度軟部肉腫におけるがん微小環境再構築による新規治療法の開発	金内洋一	整形外科科学講座	600,000	補	日本学術振興会
PIEZO1経路による腱障害の病態変化の検討	亀田拓哉	整形外科科学講座	1,800,000	補	日本学術振興会
「冷え」改善に向けた「こころ」と「からだ」の繋がり探索	二階堂琢也	整形外科科学講座	150,000	補	日本学術振興会
高齢運動器疾患患者における身体活動量とPGC1- α の関連	加藤欽志	整形外科科学講座	400,000	補	日本学術振興会
中脳辺縁ドパミン神経系の鎮痛機序とその可塑性に関する研究	紺野慎一	整形外科科学講座	100,000	補	日本学術振興会
DEXA法による筋量検査を用いた、腰部脊柱管狭窄における術前評価の確立	小林洋	整形外科科学講座	600,000	補	日本学術振興会
コラーゲン代謝障害による骨・関節破壊の分子機序の解明	松本嘉寛	整形外科科学講座	83,781	補	日本学術振興会
腱細胞・腱組織におけるTRPチャネルを介した慢性炎症の機序	亀田拓哉	整形外科科学講座	413,471	補	日本学術振興会
軽度認知機能障害は腰椎手術の成績不良因子となるかー探索的研究	渡邊和之	整形外科科学講座	658,400	補	日本学術振興会
マウス巨大骨欠損モデルを用いたMasquelet法固定方法の違いによる誘導膜の生物学的特性の解析と骨再生促進因子の検討	園部樹	整形外科科学講座	1,000,000	補	一般社団法人 JA共済総合研究所
ビッグデータとデジタル療法を用いた、運動器疾患の治療アドヒアランス向上を目指した研究:骨粗鬆症から希少がんまで	松本嘉寛	整形外科科学講座	3,500,000	補	公益社団法人 日本整形外科学会

運動器の加齢とロコモティブシンドロームについて、新たなエビデンス構築を目指す最長22年の縦断研究	渡邊和之	整形外科科学講座	4,500,000	補	公益社団法人日本整形外科学会
手指屈筋腱損傷に対する内視鏡を用いた新しい縫合技術とデバイスの開発研究	横田武尊	整形外科科学講座	500,000	補	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団
ストレス負荷に伴う難治性疼痛-ドパミンの放出と下行性疼痛抑制系機能-	関口美穂	整形外科	550,000	補	公益社団法人日本整形外科学会
壊死性腸炎に対する臍帯由来間葉系幹細胞による治療効果の検討	田中 秀明	小児外科	1,200,000	補	日本学術振興会
ミニ腸の先天性小腸吸収不全病態モデルによる治療薬アッセイ系の開発	三森 浩太郎	小児外科	1,000,000	補	日本学術振興会
細胞シート工学を用いた肝臓再生:iPS由来肝細胞シートによる3D新生肝組織の開発	清水祐史	小児外科	456,000	補	福島県立医科大学

計 158 件

- 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等
- (注) 1 が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Yoshida S, Koga T, Fujita Y, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Serum Mac-2 binding protein glycosylation isomer and galectin-3 levels in adult-onset Still's disease and their association with cytokines.	Front Immunol. 2024 Apr;15:1385654.	Original Article
2	Yoshida S, Miyata M, Suzuki E, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Incidence Rates of Infections in Rheumatoid Arthritis Patients Treated with Janus Kinase or Interleukin-6 Inhibitors: Results of a Retrospective, Multicenter Cohort Study.	J Clin Med. 2024 May;13(10):3000.	Original Article
3	Fujita Y, Matsumoto H, Inada K, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	C5a stimulation induces caspase-1 activation and mature IL-1 β production in human peripheral blood mononuclear cells.	Immunol Med. 2024 Jun;47(2):68-75.	Original Article
4	Abe K, Hayashi M, Sugaya T, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Long-term outcomes in patients with primary biliary cholangitis complicated with CREST syndrome.	Sci Rep. 2024 Jun;14(1):14124.	Original Article
5	Saito K, Yoshida S, Ebina H, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Real-world comparative study of drug retention of Janus kinase inhibitors in patients with rheumatoid arthritis.	PLoS One. 2024 Jul;19(7):e0306714.	Original Article
6	Matsumoto H, Yoshida S, Koga T, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Increased serum caspase-1 in adult-onset Still's disease.	PLoS One. 2024 Jul;19(7):e0307908.	Original Article
7	Maeda A, Tsuchida N, Uchiyama Y, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome.	Rheumatology (Oxford). 2024 Aug;63(8):2056-2064.	Original Article
8	Higuchi T, Oka S, Shimada K, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Association of rare single nucleotide variant MUC5B rs35705950 with interstitial lung disease in Japanese rheumatoid arthritis.	Rheumatology (Oxford). 2024 Aug;keae422.	Original Article
9	Matsumoto H, Sudo R, Fujita Y, et al.	リウマチ膠原病内科学講座	Inhibition of CEACAM1 expression in cytokine-activated neutrophils using JAK inhibitors.	BMC Immunol. 2024 Oct;25(1):63.	Original Article

10	Yoshida S, Fujita Y, Koga T, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Identification of novel cytokine to judge the diagnosis and clinical phenotype of adult-onset Still's disease.	2025 Mar;48(1):58-69.	Original Article
11	Oka S, Higuchi T, Furukawa H, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Serum Anti-Aminoacyl-Transfer Ribonucleic Acid Synthetase Antibody Levels Are Involved in Rheumatoid Arthritis Complicated with Interstitial Lung Disease.	J Clin Med. 2024 Nov;13(22):6761.	Original Article
12	Sato S, Yoshida S, Sumichika Y, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Clinical features of flare in Japanese patients with new-onset SLE and risk factors for SLE flare in daily clinical practice: a single-center cohort study.	Immunol Med. 2024 Dec;47(4):230-237.	Original Article
13	Oka S, Higuchi T, Furukawa H, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Helicobacter pylori Seroprevalence in Rheumatoid Arthritis Patients with Interstitial Lung Disease.	Biomark Insights. 2024 Dec;19:11772719241297171.	Original Article
14	Takamatsu R, Shimojima Y, Kishida D, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Headache in systemic lupus erythematosus: The LUNA registry cross-sectional study.	Lupus. 2024 Aug;33(9):901-909.	Original Article
15	Onishi T, Sada KE, Hayashi K, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Clinical practice pattern of Pneumocystis pneumonia prophylaxis in systemic lupus erythematosus: a cross-sectional study from lupus registry of nationwide institutions (LUNA).	Arthritis Res Ther. 2024 Nov;26(1):198.	Original Article
16	Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	A Phase Ib Investigator-Initiated Trial of Filgotinib in Patients With Idiopathic Multicentric Castleman Disease.	Cureus. 2025 Feb;17(2):e78865.	Original Article
17	Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Dynamics of Serum Cytokines and Chemokines in Patients With Idiopathic Multicentric Castleman Disease: From a Phase Ib Investigator-Initiated Trial of Filgotinib.	Cureus. 2025 Feb;17(2):e78974.	Original Article
18	Yoshida S, Fujita Y, Koga T, et al.	リウマチ膠原病 内科学講座	Identification of novel cytokine to judge the diagnosis and clinical phenotype of adult-onset Still's disease.	Immunol Med. 2025 Mar;48(1):58-69.	Original Article
19	Yasuhito Suzuki, Kento Sato, Suguru Sato, et al.	呼吸器内科学講座	Antibiotic treatment for patients with exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease: A systematic review and meta-analysis	Respiratory Investigation.2024: Jul;62(4); 663-668	Original Article
20	Yasuhito Suzuki, Tomoyoshi Lee, Ryuichi Togawa, et al.	呼吸器内科学講座	Efficacy of combination antibiotic therapy including inhaled tobramycin on Burkholderia cepacia pneumonia in a non-cystic fibrosis patient	IDCases. 2024:Sep 9:38	Case report

21	Yoko Shibata, Hiroyuki Minemura, Yasuhito Suzuki, et al.	呼吸器内科学講座	Simple prediction tools for disease progression in unvaccinated patients with mild/moderate COVID-19 aged under 65 years: Simplified DOATS and DOAT scores	Respiratory Investigation.2024 Jul;62(4):681-684	Original Article
22	Takefumi Nikaido, Yoshinori Tanino, Yuki Sato, et al.	呼吸器内科学講座	The first lichen planus case coexisting bronchiolitis obliterans without malignant tumors	Pathology International.2024 Jun;74(6):352-355	Case report
23	Kakuta Kazuya, Chida Koichi	災害医療部	Parameter optimisation for image acquisition and stacking in carbon dioxide digital subtraction angiography	Radiological Physics and Technology. 2024 Sep; 17(4):862-868.	Original Article
24	Keisuke Yoshida, Shinju Obara, Ko Kakinouchi, et al.	集中治療部	Remimazolam may be suited for diagnosis of nonconvulsive status epilepticus	J Anesth. 2024 Jun;38(3):412-413	Letter
25	Keisuke Yoshida, Atsushi Takizuka, Ko Kakinouchi, et al.	集中治療部	Pros and cons of using rapid sequence induction in all cases requiring general anesthesia	JA Clin Rep. 2024 Jun 6;10(1):37.	Letter
26	Keisuke Yoshida, Satoki Inoue	集中治療部	Prevention of retained surgical sponges: Patient safety through medical-engineering collaboration	December 2024JCA Advances 1(3-4)	Letter
27	Keisuke Yoshida, Takaaki Inoue, Takashi Araki, et al.	集中治療部	What should we ask the patient before emergency tracheal intubation?	December 2024JCA Advances 1(3-4)	Letter
28	Keisuke Yoshida, Takayuki Hasegawa, Tatsumi Yakushiji, et al.	集中治療部	Advice on how to make ultrasound-guided rectus sheath block safer and more standardized	July 2024JCA Advances 1(3-4)	Letter
29	Keisuke Yoshida, Takayuki Hasegawa, Masaya Sekiguchi, et al.	集中治療部	Advice on how to improve the visibility of ultrasound images in TAPA/M-TAPA block	Reg Anesth Pain Med. 2024 Jul	Letter
30	Miho Ogawa, Jun Honda, Keisuke Yoshida, et al.	集中治療部	Internal Jugular Vein Valve Dysfunction and Venous Dissection-Complications of Central Venous Catheterization	Ann Card Anaesth. 2024 Oct 1;27(4):383-384.	Case report
31	Keisuke Yoshida, Fumika Kawamata, Takayuki Hasegawa, et al.	集中治療部	Appropriate use of inhaled nitric oxide in line with sustainable development goals	JA Clin Rep. 2024 Oct 28;10(1):69.	Letter

32	Keisuke Yoshida, Shiori Tanaka, Takayuki Hasegawa, et al.	集中治療部	Intramuscular quadratus lumborum block can be a good analgesic option for lumbar spine surgery	JA Clin Rep. 2024 Dec 20;10(1):76.	Letter
33	Shinju Obara, Ryota Suhara, Masahiro Murakawa	手術部	Pharmacokinetic simulation can detect erroneous TOF counts	J Anesth. 2024 Jun;38(3):414-416	Letter
34	Shinju Obara, Naoyuki Hirata, Satoshi Hagihira, et al.	手術部	What are standard monitoring devices for anesthesia in future?	J Anesth. 2024 Aug;38(4):537-541.	Others
35	Shinju Obara, Yuko Nakano, Reiko Oishi, et al.	手術部	Marked Improvement in Severe Chronic Penile Pain Following the Administration of Mirogabalin: A Case Report	Cureus. 2024 Jul 23;16(7)	Case report
36	Shinju Obara, Kotoe Kamata, Masakazu Nakao, et al.	手術部	Recommendation for the practice of total intravenous anesthesia	J Anesth. 2024 Dec;38(6):738-746.	Review
37	Shinju Obara	手術部	The concept of "fictitious weight" in pharmacokinetic simulations and target-controlled infusion	J Anesth. 2024 Dec;38(6):733-737.	Others
38	Shinju Obara, Yuki Watanabe Hoshino, Satoki Inoue	手術部	Combined Use of Remimazolam and Propofol in Total Intravenous Anesthesia: A Retrospective Analysis	Journal of Anesthesiology and Pain Therapy. October 22, 2024	Original Article
39	Ai Ono, Keisuke Yoshida, Rieko Oishi, et al.	麻酔・疼痛緩和科	A case of accidental intraperitoneal placement of the rectus sheath block catheter via an out-of-plane approach	JA Clin Rep. 2024 Apr 3;10(1):21	Case report
40	Jun Honda, Keisuke Yoshida, Miho Ogawa, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Blood Gas Analysis Result Suggestive of Arterial Blood but no Pressure Wave: Is this an Arterial Line?	Ann Card Anaesth. 2024 Apr 1;27(2):177-178.	Case report
41	Tatsumi Yakushiji, Keisuke Yoshida, Takayuki Hasegawa, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Loss of Resistance Epidural Syringes with a Retraction Stop and the Risk of Accidental Dural Puncture	APSF NEWSLETTER by email. 2024 Apr	Letter
42	Takayuki Hasegawa, Keisuke Yoshida, Satoki Inoue	麻酔・疼痛緩和科	Tips for responding to accidental loss of an endotracheal tube adaptor: A case report	JCA Advances. 2024 Jun Volume 1, Issues 1-2	Case report

43	Satoki Inoue	麻酔・疼痛緩和科	Pitfalls of surgical safety checklists: Risk of becoming mere formalities	June 2024JCA Advances 1(3-4)	Letter
44	Tatsumi Yakushiji, Takahiro Hakozaiki, Yuzo Iseki, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Bilateral Diaphragm Paralysis in Deep Neck Infection: Mimicking Respiratory Distress in Sepsis	Journal of Anaesthesia and Pain Vol 5, No 2 (2024.5)	Case report
45	Rieko Oishi, Hidemi Ishido, Natsuho Akiyama, et al.	麻酔・疼痛緩和科	The accuracy of fingerbreadth measurements using our own fingers and visual estimation	JCA Advances Volume 1, Issues 3-4, December 2024	Original Article
46	Jun Honda, Rieko Oishi, Keisuke Yoshida, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Limitations of high-frequency variability index in pain monitoring during pheochromocytoma resection	Indian J Anaesth. 2024 Oct;68(10):930-932.	Case report
47	Ryohei Fukasawa, Keisuke Yoshida, Satoki Inoue	麻酔・疼痛緩和科	Confirmation of pediatric one lung ventilation by lung ultrasound: A case report	JCA Advances. Volume 1, Issues 3-4, December 2024,	Case report
48	Yuko Nakano, Rieko Oishi, Satoki Inoue	麻酔・疼痛緩和科	Caution: Ultrasound-guided intercostal nerve block is not entirely safe	Pain Pract. 2024 Sep 30.	Letter
49	Rieko Oishi, Shinju Obara, Keisuke Yoshida, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Ultrasound assessment of the frequency and variation of arteries in the interscalene region	J Anesth. 2025 Feb;39(1):56-60.	Original Article
50	Tatsumi Yakushiji, Jun Honda, Atsuyuki Hosono, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Improvement in oxygenation with a calcium channel blocker in a patient with hepatopulmonary syndrome during tacrolimus therapy following living donor liver transplantation - A case report	Indian J Anaesth. 2024 Dec;68(12):1099-1101.	Case report
51	Takayuki Hasegawa, Keisuke Yoshida, Takahiro Hakozaiki, et al.	麻酔・疼痛緩和科	The effectiveness of weighted blankets on sleep quality in intensive care unit patients: A prospective randomised controlled trial	J Perioper Pract. 2024 Dec 26:	Original Article
52	Muto T, Sakamoto M, Kusuda S, et al.	眼科	Effect of the COVID-19 pandemic on Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Sci Rep. 2024 Jun 8;14(1):13211.	Original Article
53	Muto T, Sakamoto M, Machida S, et al.	眼科	Effect of Vitreous Reflux after Intravitreal Aflibercept Injection for Macular Edema with Branch Retinal Vein Occlusion: A Real-World Study.	J Ophthalmol. 2024 Jun 25:7645490.	Original Article

54	Mukai R, Itagaki K, Honjo J, et al.	眼科	Association between the arm-to-choroidal circulation time and clinical profile in patients with polypoidal choroidal vasculopathy.	Jpn J Ophthalmol. 2024 May;68(3):211-215.	Original Article
55	Mukai R, Kataoka K, Tanaka K, et al.	眼科	One-year outcomes and safety assessment of faricimab in treatment-naïve patients with neovascular age-related macular degeneration in Japan.	Sci Rep. 2024 May 22;14(1):11681.	Original Article
56	Maehara H, Mukai R, Iitaka Y, et al.	眼科	Efficacy of 3% diquafosol long-acting eye drops in dry eye patients treated for three months.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Jul;68(4):338-345	Original Article
57	Mukai R, Honjo J, Tanaka K, et al.	眼科	Exploring the comparative regressive effects of aflibercept and faricimab on pigment epithelial detachment.	BMC Ophthalmol. 2024 Sep 3;24(1):393..	Original Article
58	Muto T, Kawaguchi S, Kusuda S, et al.	眼科	Early Changes in Ocular Biomarkers in Patients with Vogt-Koyanagi-Harada Disease After Pulse Steroid Therapy.	Ophthalmologica. 2025 248(1):40-53. doi: 10.1159/000542724. Epub 2024 Nov 21.	Original Article
59	Maehara H, Ueno Y, Yamaguchi T, et al.	眼科	The importance of clinical experience in AI-assisted corneal diagnosis: verification using intentional AI misleading.	Sci Rep. 2025 Jan 9;15(1):1462.	Original Article
60	Maehara H, Ueno Y, Yamaguchi T, et al.	眼科	Artificial intelligence support improves diagnosis accuracy in anterior segment eye diseases.	Sci Rep. 2025 Feb 11;15(1):5117	Original Article
61	Honjo J, Mukai R, Itagaki K, et al.	眼科	Comparison of intraocular pressure changes in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration treated with aflibercept or faricimab.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Mar;69(2):230-235.	Original Article
62	Noriaki Kawano, Masahiko Fukatsu, Kazuma Yamakawa, et al.	血液内科	A systematic review and meta-analysis of recombinant human soluble thrombomodulin for the treatment of DIC associated with hematological malignancies	International Journal of Hematology 2024 Apr	Original Article
63	Takayuki Ikezoe	血液内科	Cancer-associated thrombosis and bleeding	International Journal of Hematology 2024 May	Original Article
64	Masahiko Fukatsu, Takayuki Ikezoe	血液内科	Cancer-associated thrombosis in hematologic malignancies	International Journal of Hematology 2024 May	Original Article

65	Cong Liu, Qiu Lan, Shuo Cao, et al.	血液内科	Thrombin receptor activating peptide-6 decreases acute graft-versus-host disease through activating GPR15	Leukemia 2024 Jun	Original Article
66	Kengo Suzuki, Daisuke Koyama, Yuka Oka, et al.	血液内科	Myeloid sarcoma with plasmacytoid dendritic cell-like proliferation associated with IKZF1, ETV6 and DNMT3A mutations	International Journal of Hematology 2024 Sep	Original Article
67	Kiyohito Hayashi, Daisuke Koyama, Yoichi Hamazaki, et al.	血液内科	Syndecan-1 as a prognostic biomarker in COVID-19 patients: a retrospective study of a Japanese cohort	Thrombosis Journal 2024 Jun	Original Article
68	Hiroshi Ureshino, Naoto Takahashi, Takayuki Ikezoe, et al.	血液内科	A lower initial dose of bosutinib for patients with chronic myeloid leukemia patients resistant and/or intolerant to prior therapy: a single-arm, multicenter, phase 2 trial (BOGI trial)	International journal of Hematology 2024 Oct	Original Article
69	Chen Yao, Hanyong Zhu, Binbin Ji, et al.	血液内科	rTM reprograms macrophages via the HIF-1 α /METTL3/PFKM axis to protect mice against sepsis	Cellular and Molecular Life Sciences 2024 Nov	Original Article
70	Tatsuo Oyake, Takahiro Maeta, Takenori Takahata, et al.	血液内科	Real-world retrospective analysis of immune checkpoint inhibitor therapy for relapsed or refractory Hodgkin's lymphoma	Journal of clinical and experimental hematopathology 2024 Sep	Original Article
71	Masashi Sawa, Toshihiro Miyamoto, Hee-Je Kim, et al.	血液内科	A phase 1/2 study of gilteritinib in combination with chemotherapy in newly diagnosed patients with AML in Asia	International Journal of Hematology 2025 Jan	Original Article
72	Noriaki KAWANO, Takayuki IKEZOE, Hideo WADA, et al.	血液内科	The Clinical Features and Treatment Outcomes of Intracranial Hemorrhage With Acute Leukemia and Disseminated Intravascular Coagulation	Shimane J.Med.Sci., 2025 Mar	Original Article
73	Ishii S, Yamakuni R, Tsuchiya T, et al.	放射線医学講座	Incidence of bowel wall swelling induced by iodine-contrast media and its association with gastrointestinal manifestation.	J Comput Assist Tomogr 2024; 48: 42-48.(8月)	Original Article
74	Murakami T, Abe M, Tiksnadi A, et al.	神経内科学講座	Abnormal motor cortical plasticity as a useful neurophysiological biomarker for Alzheimer's disease pathology.	Clin Neurophysiol 2024; 158: 170-179.	Original Article
75	Isomatsu D, Sato A, Muto Y, et al.	循環器内科学講座	Predictive value of aortic valve calcium volume measured by computed tomography for paravalvular leakage after transcatheter aortic valve implantation.	Int Heart J 2024; 65: 63-70.	Original Article

76	Yamakuni R, Ishikawa H, Ishii S, et al.	放射線医学講座	The relationship between conventionally obtained serum-based liver function indices and intravoxel incoherent motion diffusion-weighted imaging and magnetic resonance elastography in patients with hepatocellular carcinoma.	J Comput Assist Tomogr 2024; 48: 194-199.(4月)	Original Article
77	Katahira M, Fukushima K, Kiko T, et al.	放射線医学講座	Prognostic significance of left atrial strain combined with left ventricular strain using cardiac magnetic resonance feature tracking in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Heart Vessels 2024; 39: 404-411.(5月)	Original Article
78	Ishii S, Sugawara S, Tanaka Y, et al.	放射線医学講座	Impact of iodine contrast media on gamma camera-based GFR and factors affecting the difference between serum creatinine-based estimated GFR and Gate's GFR.	Nucl Med Commun 2024; 45: 573-580.(7月)	Original Article
79	Yamakuni R, Murakami T, Ukon N, et al.	放射線医学講座	Differential centiloid scale normalization techniques: comparison between hybrid PET/MRI and independently acquired MRI.	Ann Nucl Med 2024; 38: 835-846. 294. (10月)	Original Article
80	Suenaga H, Fukushima K, Ishii S, et al.	放射線医学講座	Global and Regional reduction of myocardial perfusion in patients with transthyretin type of cardiac amyloidosis: a dual SPECT study using ^{99m} Tc pyrophosphate and ²⁰¹ Thallium.	Ann Nucl Cardiol 2024; 10: 16-22.(10月)	Original Article
81	Hara J, Ishii S, Kobiyama H, et al.	放射線医学講座	A quantitative diagnostic method using ^{99m} Tc-pyrophosphate lateral planar images to distinguish between transthyretin amyloid cardiomyopathy and false-positive images due to blood pools.	Ann Nucl Cardiol 2024; 10: 23-28.(10月)	Original Article
82	Hara J, Ishii S, Tanabe H, et al.	放射線医学講座	Respiratory displacement of the right adrenal vein: comparison of inspiratory and expiratory computed tomography with catheter venography.	J Comput Assist Tomogr 2024; 48: 882-888.(11月)	Original Article
83	Nakamura J, Hikichi T, Hashimoto M.	内視鏡診療部	Texture and color enhancement imaging improve visibility in photodynamic therapy for patients with esophageal squamous cell carcinoma.	Dig Endosc. 2024 June; 36: 744-746.	Case report
84	Nakamura J, Hikichi T, Tanaka H.	内視鏡診療部	Coagulation with hemostatic forceps after endoscopic injection sclerotherapy in a pediatric patient with esophageal varices.	Dig Endosc. 2024 May; 36: 631-633.	Case report
85	Nakamura J, Hikichi T, Hashimoto M, et al.	内視鏡診療部	Pull-back myotomy to prevent mucosal injury during peroral endoscopic myotomy for jackhammer esophagus.	Endoscopy. 2024 Apr; 56(S01). E362-E363.	Case report

86	Takashi Kaneshiro, Sadahiro Murota, Takeshi Nehashi, et al	循環器内科学講座	Achieving reduced radiation exposure with maintained fluoroscopy effectiveness using ultralow-dose settings in cryoballoon ablation	J Arrhythm. 2024 Dec. 40 (6), 1400-1407	Original Article
87	Shinya Yamada, Takashi Kaneshiro, Minoru Nodera, et al	循環器内科学講座	Associations of the fibrosis-4 index with left atrial low-voltage areas and arrhythmia recurrence after catheter ablation: Cardio-hepatic interaction in patients with atrial fibrillation	J Arrhythm. 2024 Jun. 40 (3), 585-593	Original Article
88	Tetsuro Yokokawa, Kazuto Nishiura, Masataka Katahira, et al	循環器内科学講座	Collagen triple helix repeat-containing protein 1 is a novel biomarker of right ventricular involvement in pulmonary hypertension	Can J Cardiol. 2024 Nov. 40 (11), 2281-2288	Original Article
89	Shinya Yamada, Takashi Kaneshiro, Minoru Nodera, et al	循環器内科学講座	Critical ablation targets of ventricular tachycardia revealed by activation mapping with both last deflection and peak frequency annotations in a patient of cardiac sarcoidosis	J Arrhythm. 2024 Nov. 40 (6), 1510-1513	Original Article
90	Tomofumi Misaka, Yu Sato, Yukiko Sugawara, et al	循環器内科学講座	Elevated blood bicarbonate levels and long-term adverse outcomes in patients with chronic heart failure	ESC Heart Fail. 2024 Dec. 11 (6), 4420-4426	Original Article
91	Minoru Nodera, Tomokazu Ishida, Kanae Hasegawa, et al	循環器内科学講座	Epicardial adipose tissue density predicts the presence of atrial fibrillation and its recurrence after catheter ablation: three-dimensional reconstructed image analysis	Heart Vessels. 2024 Aug. 39 (8), 696-705	Original Article
92	Masataka Katahira, Kenji Fukushima, Keiichiro Endo, et al	循環器内科学講座	Feasibility of position emission tomography derived endocardial wall strain: direct comparison with magnetic resonance using hybrid ¹³ N ammonia PETMR system	Ann Nucl Med. 2025 Mar. 39 (3), 285-294	Original Article
93	Yu Sato, Akiomi Yoshihisa, Yuji Nozaki, et al	循環器内科学講座	Geriatric nutritional risk index predicts bleeding event in patients with heart failure	ESC Heart Fail. 2024 Apr. 11 (2), 702-708	Original Article
94	Takeshi Shimizu, Yuya Sakuma, Yuuki Muto, et al	循環器内科学講座	Impact of cardio-ankle vascular index on future cancer in patients with coronary artery disease	Circ Rep. 2024 Aug. 6 (9), 372-380	Original Article
95	Yu Sato, Akiomi Yoshihisa, Yukiko Sugawara, et al	循環器内科学講座	Malnutrition stratified by marasmus and kwashiorkor in adult patients with heart failure	Sci Rep. 2024 Aug. 14 (1), 19722	Original Article
96	Shohei Ichimura, Tomofumi Misaka, Ryo Ogawara, et al	循環器内科学講座	Neutrophil extracellular traps in myocardial tissue drive cardiac dysfunction and adverse outcomes in patients with heart failure with dilated cardiomyopathy	Circ Heart Fail. 2024 Jun. 17 (6), e011057	Original Article

97	Masataka Katahira, Kenji Fukushima, Takatoyo Kiko, et al	循環器内科学講座	Prognostic significance of left atrial strain combined with left ventricular strain using cardiac magnetic resonance feature tracking in patients with heart failure with preserved ejection fraction	Heart Vessels. 2024 May. 39 (5), 404-411	Original Article
98	Tetsuro Yokokawa, Olivier Boucherat, Sandra Martineau, et al	循環器内科学講座	Prognostic significance of proteomics-discovered circulating inflammatory biomarkers in patients with pulmonary arterial hypertension	J Am Heart Assoc. 2024 Jun. 13 (12), e032888	Original Article
99	Yusuke Tomita, Tomofumi Misaka, Yukiko Sugawara, et al	循環器内科学講座	Reduced fetuin-A levels are associated with exercise intolerance and predict the risk of adverse outcomes in patients with heart failure: The role of cardiac-hepatic-peripheral interaction	J Am Heart Assoc. 2024 Sep. 13 (17), e035139	Original Article
100	Tetsuya Tani, Masayoshi Oikawa, Himika Ohara, et al	循環器内科学講座	Subclinical B-type natriuretic peptide elevation 24 months after anthracycline-containing chemotherapy	Int Heart J. 2025 Mar. 66 (2), 279-284	Original Article
101	Daisuke Isomatsu, Takayoshi Yamaki, Ayano Ikeda, et al	循環器内科学講座	Intracardiac thrombus associated with heparin-induced thrombocytopenia in a patient with patent foramen ovale	Circ J. 2024 Aug. 88 (9), 1501	Case report
102	Daisuke Isomatsu, Masayoshi Oikawa, Yuuki Muto, et al	循環器内科学講座	Successful implantation of balloon-expandable transcatheter aortic valve against quadricuspid aortic valve stenosis	Oxf Med Case Reports. 2024 Oct. 2024 (10), 485-486	Case report
103	Yu Sato, Akiomi Yoshihisa, Yasuchika Takeishi	循環器内科学講座	Organ injury and its management in heart failure: liver, kidney, and thyroid gland dysfunction	Fukushima J Med Sci. 2024 Jul. 70 (3), 111-117	Review
104	Satoshi Muto, Miwako Kato Homma, Yuichiro Kiko, et al.	呼吸器外科	Nucleolar casein kinase 2 alpha as a prognostic factor in patients with surgically resected early-stage lung adenocarcinoma.	Oncol Rep. 2025 Jan; 53(1): 4	Original Article
105	Satoshi Muto, Yuki Ozaki, Hikaru Yamaguchi, et al.	呼吸器外科	Tumor β -Catenin Expression Associated With Poor Prognosis to Anti-PD-1 Antibody Monotherapy in Non-small Cell Lung Cancer.	Cancer Diagn Progn. 2025 Jan; 5(1): 32-41	Original Article
106	Imaizumi M, Weng W, Zhu X, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effectiveness of FEES with artificial intelligence-assisted computer-aided diagnosis.	Auris Nasus Larynx 2024 Apr; 51(2):251-258	Original Article
107	Ikeda M, Matsuzuka T, Kakamu T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Feasibility of totally implantable venous access ports in the upper arm for patients with head and neck cancer in the modern era of chemotherapy.	J Vasc Access 2024 Sep 26: 11297298241279623	Original Article

108	Imaizumi M, Takeda H, Minami S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effectiveness of CI as an alternative to ABI for hearing loss in patients with vestibular schwannomas: A multicenter study in Japan.	Auris Nasus Larynx 2024 Dec; 51(6):1009-1015	Original Article
109	Murono S, Yagi-Nakanishi S, Endo K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Exploratory Study on the Relationship between Head and Neck Cancer and Japanese Cedar Pollinosis.	Tohoku J Exp Med. 2024 Dec 12. doi:10.1620/tjem.2024.J142.	Original Article
110	Nobuhisa Takahashi, Kazuhiro Mochizuki, Atsushi Kikuta, et al.	小児腫瘍内科	Graft CD8+ T cells for improving event-free survival after T cell-replete haploidentical stem cell transplantation in children with hematological malignancies	Int J Hematol•2025 Mar;121(3):403-410	Original Article
111	Kimura-Tsuchiya R, Nagao M, Saji S, et al.	腫瘍内科学講座	Merging of the Fukushima Health Management Survey With the National and Local Cancer Registry to Refine the Detection of Thyroid Cancer Cases After the 2011 Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident	Cancer Med. 2025 Feb (オンライン)	Original Article
112	Sasaki E, Natori Y, Kimura-Tsuchiya R, et al.	腫瘍内科学講座	Association between specific human leukocyte antigen alleles and development of thyroid immune-related adverse event	Immunotherapy. 2024;16(11):723-732	Original Article
113	Hatano S, Maeda H, Ichikawa H, et al.	小児科	Persistent neonatal alloimmune thrombocytopenia caused by triple anti-HLA-A11, -B3901, and -Cw7 antibodies.	International journal of hematology 2025年 03月31日	Original Article
114	Takahashi N, Mochizuki K, Kikuta A, et al.	小児腫瘍内科	Graft CD8(+) T cells for improving event-free survival after T cell-replete haploidentical stem cell transplantation in children with hematological malignancies.	International Journal of Hematology 2025 Mar;121(3)	Original Article
115	Shimoda K, Komatsu N, Matsumura I, et al.	輸血・移植免疫部	Momelotinib versus ruxolitinib in JAK inhibitor-naïve patients with myelofibrosis: an efficacy/safety analysis in the Japanese subgroup of the phase 3 randomized SIMPLIFY-1 trial.	International journal of hematology 2024年 09月	Original Article
116	Miura S, Ueda K, Minakawa K, et al.	輸血・移植免疫部	Prospects and Potential for Chimerism Analysis after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Cells 2024年06月06日	Original Article
117	Matsuishi A, Nakajima S, Kaneta A, et al.	消化管外科	The tumor cell-intrinsic cGAS-STING pathway is associated with the high density of CD8(+) T cells after chemotherapy in esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society 2024年4月	Original Article

118	Tsumuraya H, Okayama H, Katagata M et al.	消化管外科	TGF β -Responsive Stromal Activation Occurs Early in Serrated Colorectal Carcinogenesis.	International journal of molecular sciences 2024年4月	Original Article
119	Sakuma M, Katagata M, Okayama H, et al.	消化管外科	TIM-3 Expression on Dendritic Cells in Colorectal Cancer.	Cancers2024年5月	Original Article
120	Tsumuraya H, Mimura K, Nakajima S, et al.	消化管外科	Tumor Infiltrating Effector Regulatory T Cells Express VEGF Receptor 2 in Patients With Colorectal Cancer.	Anticancer research 2024年7月	Original Article
121	Kono K, Nakajima S, Mimura K	消化管外科	Biomarker-oriented chemotherapy for advanced gastric cancer.	Int J Clin Oncol 2024 年7月	Original Article
122	Matsuishi A, Nakajima S, Saito M, et al.	消化管外科	The impact of CLDN18.2 expression on effector cells mediating antibody-dependent cellular cytotoxicity in gastric cancer.	Scientific reports2024 年8月	Original Article
123	Kanoda R, Nakajima S, Fukai S, et al.	消化管外科	High levels of tumor cell-intrinsic STING signaling are associated with increased infiltration of CD8(+) T cells in dMMR/MSI-H gastric cancer.	Scientific reports 2024年9月	Original Article
124	Saori Miura, Koki Ueda, Keiji Minakawa, et al.	輸血・移植免疫部	Prospects and Potential for Chimerism Analysis after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Cells2024年6月	Original Article
125	Koki Ueda, Shu Shien Chin, Noriko Sato, et al.	輸血・移植免疫部	Prenatal vitamin D deficiency exposure leads to long-term changes in immune cell proportions.	Scientific reports2024 年8月	Original Article
126	Tanabe H, Sato M, Miyake A, et al.	糖尿病内分泌代謝内科	Machine learning-based reproducible prediction of type 2 diabetes subtypes	Diabetologia . 2024 Nov;67(11):2446-2458.	Original Article
127	Shimabukuro M.	糖尿病内分泌代謝内科	Leucocyte Count: Inflammatory and ROS Biomarkers of ASCVD	J Atheroscler Thromb . 2024 Jun 1;31(6):861-863.	Original Article
128	Shimabukuro M, Kamiya K.	糖尿病内分泌代謝内科	2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey, "Thinking Together about Health, Life, and our Future in Fukushima"	Fukushima J Med Sci . 2024 April ;70(2):107-109.	Original Article

129	Horita S, Watanabe G, Misaka S, et al.	糖尿病内分泌代謝内科	Peripheral dopamine suppression and elevated cystatin C in early diabetic nephropathy in spontaneously diabetic rats	Am J Physiol Renal Physiol . 2024 Oct 1;327(4):F581-F590.	Original Article
130	Saito H, Tanabe H, Hirai H, et al.	糖尿病内分泌代謝内科	Young-onset type 2 diabetes mellitus enhances proteinuria, but not glomerular filtration rate decline: A Japanese cohort study	J Diabetes Investig . 2024 Oct;15(10):1444-1456.	Original Article
131	Aiganym Imakhanova, Naoki Matsuda, Noboru Takamura, et al.	核医学科	Radiation Exposure Characteristics among Healthcare Workers: Before and After Japan's Ordinance Revision.	Health Phys.2024年4月	Original Article
132	Arman Nessipkhan, Naoki Matsuda, Noboru Takamura, et al.	核医学科	Occupational radiation exposure among medical personnel in university and general hospitals in Japan.	Jpn J Radiol.2024年9月	Original Article
133	Arman Nessipkhan, Naoki Matsuda, Noboru Takamura, et al.	核医学科	The Influence of Revised Ordinance on Radiation Protection Management in Japanese Hospitals: Device Deployment and Involvement of Radiology Technologists.	Jpn J Radiol.2025年1月	Original Article
134	Sato Y, Kirihana Y, Meguro S, et al.	泌尿器科学講座	Evaluation of testicular stiffness in boys with unilateral cryptorchidism after orchiopexy by ultrasound strain elastography	Fukushima J Med Sci. 2024 Apr; 70(2): 57-64	Original Article
135	Yoshida Y, Ogawa S, Meguro S, et al.	泌尿器科学講座	CHARGE syndrome with both primary and secondary hypogonadism	IJU Case Rep. 2024 Jan 31;7(3):197-200eCollection 2024 May.	Case report
136	Hata J, Matsuoka K, Akaihata H, et al.	泌尿器科学講座	Prognosis of lower urinary tract symptoms and function after robot-assisted radical prostatectomy in patients with preoperative low bladder contractility: A prospective, observational study.	Neurourol Urodyn. 2024 Nov;43(8):2240-2248.	Case report
137	Meguro S, Johmura Y, Wang TW, et al.	泌尿器科学講座	Preexisting senescent fibroblasts in the aged bladder create a tumor-permissive niche through CXCL12 secretion.	Nat Aging. 2024 Nov;4(11):1582-1597.	Original Article
138	Hata J, Matsuoka K, Harigane Y, et al.	泌尿器科学講座	Proliferative mechanism of benign prostatic hyperplasia by NLRP3 inflammasome through the complement pathway.	Int J Urol. 2024 Dec;31(12):1429-1437.	Original Article

139	Yaginuma K, Hoshi S, Kojima Y, et al.	泌尿器科学講座	Novel astatine (211At)-labelled prostate-specific membrane antigen ligand with a neopentyl-glycol structure: evaluation of stability, efficacy, and safety using a prostate cancer xenograft model.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2025 Jan;52(2):469-481.	Original Article
140	Kumekawa T, Akaihata H, Natsuya H, et al.	泌尿器科学講座	Urodynamic findings and vibegron effects on neurogenic lower urinary tract dysfunction caused by human T-cell leukemia virus type I-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	IJU Case Rep. 2024 Aug 29;7(6):438-441.	Original Article
141	Kayama E, Uemura M, Onagi A, et al.	泌尿器科学講座	A Novel Gene Expression Scoring System Predicts Recurrence in Non-Muscle-Invasive Bladder Cancer Patients.	Cancer Med. 2024 Nov;13(22):e70349. doi: 10.1002/cam4.70349.	Original Article
142	Onagi A, Sugimoto K, Kobayashi M, et al.	泌尿器科学講座	Extrajunctional CLDN10 cooperates with LAT1 and accelerates clear cell renal cell carcinoma progression.	Cell Commun Signal. 2024 Dec 5;22(1):588. doi: 10.1186/s12964-024-01964-5.	Original Article
143	Imai H, Koguchi T, Harigane Y, et al.	泌尿器科学講座	Vogt-Koyanagi-Harada disease-like uveitis induced by nivolumab in metastatic renal cell carcinoma.	IJU Case Rep. 2024 Oct 21;8(1):36-40. doi: 10.1002/iju5.12801. eCollection 2025 Jan.	Case report
144	Ogawa S, Yaginuma K, Harigane Y, et al.	泌尿器科学講座	Longitudinal changes in factors affecting postoperative patient satisfaction after robot-assisted radical prostatectomy: an assessment using a patient-reported questionnaire.	BMC Urol. 2025 Jan 23;25(1):14. doi: 10.1186/s12894-025-01696-9.	Original Article
145	Hakozaki Y, Matsuoka K, Koguchi T, et al.	泌尿器科学講座	Late solitary metastasis of chromophobe renal cell carcinoma in the residual ureter.	IJU Case Rep. 2025 Jan 23;8(2):154-157. doi: 10.1002/iju5.12834. eCollection 2025 Mar.	Case report
146	Harigane Y, Akaihata H, Yaginuma K, et al.	泌尿器科学講座	Serum LDL/HDL cholesterol ratio predicts lower urinary tract dysfunction related dyslipidemia.	Fukushima J Med Sci. 2025 Jul 3;71(3):163-168. doi: 10.5387/fms.24-00056. Epub 2025 Mar 26.	Original Article
147	Satoru Meguro, Makoto Nakanishi	泌尿器科学講座	Cellular senescence in the cancer microenvironment	The Journal of Biochemistry, Volume 177, Issue 3, March 2025, Pages 171-176,	Review
148	Tanji R, Haga N, Hiraguri A, et al.	泌尿器科学講座	Predictors of prolonged severe urinary incontinence after robot-assisted radical prostatectomy: a prospective study.	Fukushima J Med Sci. 2024 May; 70(2): 70-77	Original Article

149	Kojima T, Maeda T, Ito Y, et. al	脳神経外科学講座	Onyx Liquid Embolic Agent: Basic Knowledge for Its Use in Interventional Neuroradiology.	J Neuroendovasc Ther. 2025.1;19(1):2024.10-0073.	Review
150	Bakhit M, Hiruta R, Kuromi Y, et. al	脳神経外科学講座	Language Dominance in Left-Handers: Unveiling Left Hemisphere Global Dominance With Specific Right Hemisphere Regional Dominance.	Cureus. 2024 Nov 28;16(11):e74691.	Original Article
151	Uzuki D, Hiruta R, Kojima T, et. al	脳神経外科学講座	Hybrid Endovascular and Direct Surgical Approach for Treatment of Penetrating Common Carotid Artery Injury: A Case Report.	NMC Case Rep J. 2024 Dec 3;11:377-382.	Case report
152	Bakhit M, Hiruta R, Iwatate K, et al.	脳神経外科学講座	The sulci of the lateral superior parietal lobule: anatomical overview and nomenclatural consideration.	Cereb Cortex. 2024 Oct 3;34(10):bhae376.	Original Article
153	Yamada M, Iwami K, Bakhit M, et al.	脳神経外科学講座	Histological outcome evaluation of selected brain preparation protocols for white fiber dissection.	Fukushima J Med Sci. 2024 Oct 18;70(4):203-209.	Original Article
154	Ito Y, Kojima T, Endo M, et al.	脳神経外科学講座	Ruptured Occipital Artery Aneurysm Following Craniotomy in a Patient with Neurofibromatosis Type 1: Case Report.	J Neuroendovasc Ther. 2024;18(6):177-181.	Case report
155	Bakhit M, Fujii M.	脳神経外科学講座	Bioinformatic Analysis of Gene Expression Related to Sialic Acid Biosynthesis in Patients With Medulloblastoma.	Cureus. 2024 May 9;16(5):e59997.	Original Article
156	Saito T, Hiruta R, Naruse Y, et al.	脳神経外科学講座	Endoscopic Endonasal Approach for Optic Canal Dural Metastasis in a Patient with Progressive Visual Dysfunction: A Case Report.	NMC Case Rep J. 2024 Apr 24;11:113-117.	Case report
157	Hiroki Wakamatsu, Hirono Satokawa, Emi Nagata, et al	心臓血管外科学講座	An Integrated Treatment for Isolated Partial Anomalous Pulmonary Venous Connection with Severe Pulmonary Hypertension	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. 2024 Jul; 8(2): 70-76	Case report
158	Kato T, Hikichi T, Nakamura J, et al.	消化器内科	Visibility of esophageal squamous cell carcinoma under iodine staining on texture and color enhancement imaging. (Original)	DEN Open. 2024 May 8;5(1):e370.	Original Article

159	Suto K, Hayashi M, Fujita M, et al.	消化器内科	Bacillus cereus Sepsis in a Patient with Severe Alcoholic Hepatitis.	Intern Med. 2024 Jun 15;63(12):1707-1711.	Case report
160	Abe K, Abe N, Sugaya T, et al.	消化器内科	Characteristics of peripheral blood mononuclear cells and potential related molecular mechanisms in patients with autoimmune hepatitis: a single-cell RNA sequencing analysis.	Med Mol Morphol. 2024 Jun;57(2):110-123.	Original Article
161	Hayashi M, Otsuka M, Fujita M, et al.	消化器内科	A case of a newly developed complicated cystic lesion in the liver.	J Med Ultrason (2001). 2024 Jul;51(3):533-534.	Case report
162	Hayashi M, Abe K, Sugaya T, et al.	消化器内科	A low baseline serum myostatin concentration is associated with poor clinical outcome in patients with primary biliary cholangitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Oct;39(10):2069-2076.	Original Article
163	Imaizumi H, Takahashi A, Takahata Y, et al.	消化器内科	Association between Sleep Duration and a New Onset of Nonalcoholic Fatty Liver Disease.	Intern Med. 2024 Dec 15;63(24):3277-3282.	Original Article
164	Hayashi M, Otsuka M, Fujita M, et al.	消化器内科	A case of a newly developed complicated cystic lesion in the liver.(Case report)	J Med Ultrason (2001). 2024 Jul;51(3):533-534.	Case report
165	Kameoka E, Hikichi T, Hashimoto M, et al.	消化器内科	Rectal implantation cyst successfully diagnosed using endoscopic myotomy and endoscopic ultrasonography. Clin J Gastroenterol. 2024 Aug;17(4):647-653. (Case report)	Clin J Gastroenterol. 2024 Aug;17(4):647-653.	Case report
166	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki T, et al.	消化器内科	A new preprocedural predictive risk model for post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis:	The SuPER model. Elife. 2025 Jan 17;13:RP101604.	Original Article
167	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al.	消化器内科	Selection methods for endoscopic ultrasound guided biliary drainage cases that are appropriate for beginners.	Exp Ther Med. 2025 Jan 20;29(3):53.	Original Article
168	Abubakar AK, Kaneda Y, Ozaki A, et al.	消化管外科	Two-Year-Span Breast Cancer Screening Uptake in Japan after the COVID-19 Pandemic and Its Association with the COVID-19 Vaccination.	Cancers (Basel) . 16 (9): 1783, 2024 May .	Original Article

169	Booka E, Takeuchi H, Kikuchi H, et al.	消化管外科	A nationwide survey on the safety of cricothyrotomy: a multicenter retrospective study in Japan.	Esophagus. 22(1): 19–26, 2025. Epub 2024 Sep 6.	Original Article
170	Dalal B, Tada T, Patel DP, et al.	消化管外科	Urinary Metabolite Diagnostic and Prognostic Liquid Biopsy Biomarkers of Lung Cancer in Nonsmokers and Tobacco Smokers.	Clin Cancer Res. 30(16): 3592–3602, 2024Aug.	Original Article
171	Fujiwara Y, Takahashi RU, Saito M, et al.	消化管外科	Oncofetal IGF2BP3-mediated control of microRNA structural diversity in the malignancy of early-stage lung adenocarcinoma.	Proc Natl Acad Sci U S A. 121(36): e2407016121, 2024Aug.	Original Article
172	Hasegawa M, Sanmoto Y, Kono K.	消化管外科	Impact of the Combination of Anamorelin and Rehabilitation on Functional and Nutritional Outcomes in Patients with Cancer Cachexia.	Nutr Cancer. 29: 1–7, Epub 2024 Aug	Original Article
173	Hasegawa M, Sanmoto Y.	消化管外科	Effect of Preoperative Geriatric Nutritional Risk Index on Prognosis in Patients after Surgery for Lower Gastrointestinal Perforation.	Ann Nutr Metab. 80(6): 323–330, 2024 Epub 2024 Oct .	Original Article
174	Hashimoto Y, Abe N, Nunobe S, et al.	消化管外科	Outcomes of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumors: A retrospective multicenter study at 21 Japanese institutions.	Ann Gastroenterol Surg. 8(5): 778–786, 2024 Mar.	Original Article
175	Kanoda R, Nakajima S, Fukai S, et al.	消化管外科	High levels of tumor cell-intrinsic STING signaling are associated with increased infiltration of CD8+ T cells in dMMR/ MSI-H gastric cancer.	Sci Rep. 14(1): 20859, 2024 Sep.	Original Article
176	Matsuishi A, Nakajima S, Kaneta A, et al.	消化管外科	The tumor cell-intrinsic cGAS-STING pathway is associated with the high density of CD8+ T cells after chemotherapy in esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus. 21(2): 165–175, 2024 Apr.	Original Article
177	Matsuishi A, Nakajima S, Saito M, et al.	消化管外科	The impact of CLDN18.2 expression on effector cells mediating antibody-dependent cellular cytotoxicity in gastric cancer.	Sci Rep. 14(1): 17916, 2024 Aug.	Original Article
178	Mimura K, Ogata T, Nguyen PHD, et al.	消化管外科	Combination of oligo-fractionated irradiation with nivolumab can induce immune modulation in gastric cancer.	J Immunother Cancer. 12(1): e008385, 2024 Jan.	Original Article

179	Nakajima S, Saito K, Fukai S, et al.	消化管外科	Activation of the tumor cell-intrinsic STING pathway induced by Fusobacterium nucleatum is associated with poor prognosis in esophageal cancer patients.	Esophagus. 2025 Apr;22(2):239-249. Epub 2025 Feb 14.	Original Article
180	Nakao E, Kawamura H, Honda M, et al.	消化管外科	Prognostic impact and survival outcomes of colon perforation in patients with metastatic colorectal cancer: a multicenter retrospective cohort study.	Int J Clin Oncol. 29 (2): 179-187, 2024 Feb.	Original Article
181	Nakao E, Honda M, Uesugi N, et al.	消化管外科	Evaluation of the prognostic impact of pathologic tumor regression grade on patients with colorectal cancer after preoperative chemoradiotherapy.	J Surg Oncol. 129 (8): 1521-1533, 2024 Jun.	Original Article
182	Ogawa K, Ishikawa H, Toyozumi T, et al.	消化管外科	Comparison of proton-based definitive chemoradiotherapy and surgery-based therapy for esophageal squamous cell carcinoma: a multi-center retrospective Japanese cohort study.	Esophagus. 21 (4): 484-494, 2024 Oct.	Original Article
183	Okamura A, Watanabe M, Okui J, et al.	消化管外科	Outcomes of patients with esophageal squamous cell carcinoma who achieved a pathological complete response in the primary lesion by neoadjuvant treatment: a Japanese nationwide cohort study.	Esophagus. 21 (1): 2-10, 2024 Jan.	Original Article
184	Okamura A, Watanabe M, Okui J, et al.	消化管外科	Esophagectomy for esophageal cancer in patients with a history of total pharyngolaryngectomy: a Japanese nationwide retrospective cohort study.	Esophagus. 21 (4): 438-446, 2024.	Original Article
185	Okui J, Nagashima K, Matsuda S, et al.	消化管外科	Recurrence-free survival as a surrogate endpoint for overall survival after neoadjuvant chemotherapy and surgery for oesophageal squamous cell carcinoma.	Br J Surg. 111 (2): znae038, 2024 Jan.	Original Article
186	Sakuma M, Katagata M, Okayama H, et al.	消化管外科	TIM-3 Expression on Dendritic Cells in Colorectal Cancer.	Cancers (Basel). 16 (10): 1888, 2024 May.	Original Article
187	Sato S, Suzuki T, Chinen T, et al.	消化管外科	The real-world data of immune-checkpoint inhibitor combination therapy for unresectable or metastatic esophageal cancer: a multi-institutional cohort study.	Int J Clin Oncol. 29 (7): 994- 1001, 2024 Jul. Epub 2024 Apr 28.	Original Article
188	Sato S, Suzuki T, Chinen T, et al.	消化管外科	Prognostic factors of second-line nivolumab monotherapy for unresectable or metastatic esophageal cancer: a multi-institutional cohort study for 184 cases.	J Gastroenterol. 59 (11): 979-985, 2024 Nov. Epub 2024 Aug 17.	Original Article

189	Takagawa Y, Suzuki M, Seto I, et al.	消化管外科	Proton beam reirradiation for locally recurrent rectal cancer patients with prior pelvic irradiation.	J Radiat Res. 65(3): 379-386, 2024 May.	Original Article
190	Tsumuraya H, Okayama H, Katagata M, et al.	消化管外科	TGF β -Responsive Stromal Activation Occurs Early in Serrated Colorectal Carcinogenesis.	Int J Mol Sci. 25 (9):4626, 2024 Apr.	Original Article
191	Tsumuraya H, Mimura K, Nakajima S, et al.	消化管外科	Tumor Infiltrating Effector Regulatory T Cells Express VEGF Receptor 2 in Patients With Colorectal Cancer.	Anticancer Res. 44 (7): 2933-2941, 2024 Jul.	Original Article
192	Chen KR, Miura K, Inazumi T, et al.	皮膚科学講座	Sarcoid vasculitis in the skin: A clinicopathologic study of 8 cases with various skin lesions but the common unique cannonball-like vessel destruction by sarcoid granulomas	Am J Surg Pathol 2025 Feb 1;49(2):150-158.	Original Article
193	Takada M, Kikuchi N, Yamamoto T.	皮膚科学講座	Umbilical psoriasis is not relevant to psoriatic arthritis	J Dermatol 2024 Jul; 51: 973-976.	Original Article
194	Satoh M, Yamamoto T.	皮膚科学講座	Cutaneous manifestations of adult-onset Still's disease: A comparative study between young-onset and elderly-onset groups.	J Dermatol 2024 Nov; 51: 1509-1514.	Original Article
195	Yoshiko Matsumoto, Yurie Kobashi, Yukie Yamaya, et al.	甲状腺内分泌学講座	Clinicopathological Findings of 220 Pediatric, Adolescent, and Young Adult Patients with Thyroid Cancer in Fukushima Medical University Hospital	THYROID 20241014	Case report
196	Shio Koki, Suzuki Satoshi, Matsumoto Yoshiko, et al.	甲状腺内分泌学講座	A prospective cohort study of the factors associated with recurrence in young patients with thyroid cancer	Thyroid 20250127	Case report
197	Watanabe K, Otani K, Nikaido T, et al.	整形外科	Time Course of Asymptomatic Stenosis in Multiple Lumbar Spinal Stenosis-Five-Year Results of Selective Decompression of Symptomatic Levels.	Medicina (Kaunas). 2024 Apr 15;60(4):636.	Original Article
198	Sonobe T, Otani K, Sekiguchi M, et al.	整形外科	Radiographic knee osteoarthritis severity has no impact on fall risk: the locomotive syndrome and health outcomes in the aizu cohort study (LOHAS): a cross-sectional study.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Apr 16;25(1):298.	Original Article

199	Kobayashi H, Watanabe K, Kobayashi Y, et al.	整形外科	A reduction method for anterior opening displacement in thoracolumbarvertebral fractures with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis using the skull clamp-assisted position.	Fukushima J Med Sci. 2024 Apr 26;70(2):87-92.	Original Article
200	Ouchi K, Sato M, Kashiwabara Y, et al.	整形外科	Investigation of walking speed and plantar pressure after chopart amputation.	Fukushima J Med Sci. 2024 Apr 26;70(2):99-102.	Case report
201	Shinden Y, Hakozaki M, Hiruta S, et al.	整形外科	Congenital incomplete duplication of lower extremity (polymelia) accompanied with anorectal malformation and unilateral deafness.	Clin Case Rep. 2024 Jun 24;12(7):e91119.	Case report
202	Sonobe T, Watanabe K, Endo Y, et al.	整形外科	A Professional Basketball Player Who Suffered an Open Ankle Dislocation Without an Associated Fracture Achieves His Prior Performance Level Three Months Later.	Cureus. 2024 Jul 11;16(7):e64314.	Case report
203	Ogawa I, Hakozaki M, Kaneuchi Y, et al.	整形外科	Case report: Atypical lipomatous tumor of the thigh in a four-year-old girl.	Front Oncol. 2024 Jul 23;14:1401861.	Case report
204	Sonobe T, Nikaido T, Yoshida K, et al.	整形外科	Effectiveness of capsulodesis in ganglion cysts caused by a medial meniscotibial ligament tear and medial meniscus extrusion.	Int J Surg Case Rep. 2024 Sep;122:110063.	Case report
205	Endo Y, Kobayashi H, Watanabe K, et al.	整形外科	Radiographic Knee Osteoarthritis Is a Risk Factor for the Development of Dementia: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study.	J Clin Med. 2024 Aug 22;13(16):4956.	Original Article
206	Yokota T, Otani K, Endo Y, et al.	整形外科	Predicting the Occurrence of New Vertebral Fractures Using the Vertebral Bone Quality Score: A Prospective Cohort Study Using 11-Year MRI Follow-up Data from the Minami-Aizu Study.	JB JS Open Access. 2024 Aug 23;9(3):e23.00161.	Original Article

207	Sonobe T, Otani K, Sekiguchi M, et al.	整形外科	Influence of Knee Osteoarthritis Severity, Knee Pain, and Depression on Physical Function: A Cross-Sectional Study.	Clin Interv Aging. 2024 Oct 5;19:1653-1662	Original Article
208	Yokota T, Nikaido T, Abe M, et al.	整形外科	Remote Orthotic Fabrication Method Using Small Three-Dimensional Printers and Computed Tomography Data: A Technical Report.	Fukushima J Med Sci. 2024 Oct 18;70(4):193-201	Original Article
209	Yokota T, Ejiri S, Sasaki N, et al.	整形外科	Clinical and Radiographic Outcomes in Kienbock Disease Following Radial Closing Wedge Osteotomy: An Age Comparative Study and Literature Review.	JB JS Open Access. 2024 Oct 30;9(4):e24.00066	Original Article
210	Sonobe T, Nikaido T, Sekiguchi M, et al.	整形外科	Effect of locomotive syndrome on knee pain in severe knee osteoarthritis.	J Orthop Sci. 2024 Nov 12:S0949-2658(24)00202-1.	Original Article
211	Endo Y, Watanabe K, Otani K, et al.	整形外科	Surgical Outcomes of Posterior Arch Resection of the Atlas Alone for Upper Cervical Myelopathy in Patients With Athetoid Cerebral Palsy: A Report of Two Cases.	Cureus. 2024 Nov 18;16(11):e73946.	Case report
212	Kobayashi H, Nikaido T, Otani K, et al.	整形外科	Foot Tapping Test as a Simple Quantitative Index of Motor Function for Lumbosacral Radiculopathy.	Spine (Phila Pa 1976). 2025 Jan 1;50(1):60-66.	Original Article
213	Nikaido T, Otani K, Sekiguchi M, et al.	整形外科	Association Between Kyphosis and Sleep Disturbance in Community-Dwelling Older Adults: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study.	Cureus. 2025 Jan 1;17(1):e76722.	Original Article
214	Yokota T, Kato K, Sekiguchi M, et al.	整形外科	Untreated symptomatic lumbar spinal stenosis and health-related quality of life: the locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study (LOHAS).	Eur Spine J. 2025 Mar 19.	Original Article
215	Sonobe T, Nikaido T, Sekiguchi M, et al.	整形外科	High Pain Self-Efficacy Reduces the Use of Analgesics in the Early Postoperative Period After Total Knee Arthroplasty: A Retrospective Cohort Study.	J Pain Res. 2025 Mar 19;18:1407-1415.	Original Article
216	Sonobe T, Nikaido T, Sekiguchi M, et al.	整形外科	The impact of central sensitization on perioperative pain in TKA: a retrospective cohort study.	Knee Surg Relat Res. 2025 Mar 19;37(1):13.	Original Article

217	Endo S, Kato K, Otoshi K, et al.	整形外科	Association between low back pain and limited lower-extremity flexibility in elementary school-aged softball players: a cross-sectional study.	BMC Sports Sci Med Rehabil. 2025 Mar 27;17(1):62.	Original Article
218	Seki T, Kaneuchi Y, Hakozaki M, et al.	整形外科	Cellular Angiofibroma of the Perineal Region with Tortuous Vessels: A Case Series of Three Cases.	Cureus. 2025 Mar 21;17(3):e80969.	Case report

計 218 件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
 - 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	菅野千敬	歯科口腔外科		Bone.2023.12月	Original Article
2	Kazuki Sugaya	救急科	Serotonin syndrome treated with cyproheptadine using NPi from a digital pupillometer as a therapeutic indicator	Medicine 2024 April 12	Case report
3					
～					

計2件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 福島県立医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程 福島県立医科大学倫理審査委員会規程 福島県立医科大学倫理審査委員会運営要綱	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 22 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 公立大学法人福島県立医科大学利益相反ポリシー 公立大学法人福島県立医科大学利益相反マネジメント要綱 公立大学法人福島県立医科大学利益相反自己申告に関する運用基準	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 24 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ①倫理審査を行う際の委員の着眼点 ②利益相反について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- 1 専門研修プログラムの特徴
 - (1) 19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用している。
 - (2) 希望する専門医資格が取得できるよう、各領域のプログラム責任者等と相談の上、最適な研修計画に基づき研修を行う。
 - (3) 専門医の資格取得に必要な症例等を確保するため、当院と連携施設（原則として各学会の認定施設）で研修を行う。
 - (4) 大学院・大学院研究生の併願が可能で、医師として働きながら大学院教育を受けることで、より充実した専門研修が可能となる。
 - (5) 医師のキャリアを見据えた幅広い一貫した教育を支援している。
- 2 専門研修プログラムの管理・運営組織
 - (1) 専門研修プログラムに関する次の各号を行うため、専門医研修管理委員会を置く。
 - 一 専門医研修の全体的な管理
 - 二 専攻医の全体的な管理
 - 三 専攻医の研修状況の評価
 - 四 採用時における専門医研修希望者の評価
 - 五 専門医研修の修了後、又は、中断後の進路について、相談等の支援を行うこと
 - (2) 専門医研修管理委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - 一 病院長（委員長）
 - 二 副病院長（教育研修・臨床研究担当）
 - 三 部長会で選任した者 若干名
 - 四 医療人育成・支援センター臨床医学教育研修部門長
 - 五 臨床医学教育研修センター部長、又は、副部長
 - 六 事務局次長（業務担当）
 - 七 その他病院長が必要と認める者
 - (3) 委員長は必要があると認める場合、専門医研修管理委員会のもとに、専門研修プログラム実務者会議を招集することができる。
- 3 研修期間
 - (1) 研修期間は、各領域の専門研修プログラムが定める期間とする。
 - (2) 研修の中断期間の扱いについては、各領域の専門研修プログラムが定める規程に準ずる。
- 4 指導体制
 - (1) 専攻医は研修期間中、各領域のプログラム責任者等の指導のもと研修を受ける。
 - (2) 専門医研修管理委員会委員長は、必要と認めるときは、専門医研修にかかる実施の状況等について、各領域のプログラム責任者から報告等を求めることができる。
- 5 専門医研修の評価
各領域の専門研修プログラムで定めた評価項目に基づき、各領域のプログラム責任者が評価を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	106.8人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
八巻 尚洋	循環器内科	部長	26年	
池添 隆之	血液内科	部長	30年	
大平 弘正	消化器内科	部長	36年	
佐藤 秀三	リウマチ・膠原病内科	部長	21年	
風間 順一郎	腎臓・高血圧内科	部長	36年	
島袋 充生	糖尿病・内分泌代謝内科	部長	36年	
金井 数明	脳神経内科	部長	24年	
柴田 陽光	呼吸器内科	部長	32年	
濱口 杉大	総合内科	部長	28年	
鈴木 弘行	呼吸器外科	部長	33年	
河野 浩二	消化管外科	部長	36年	
丸橋 繁	肝胆膵・移植外科	部長	29年	
大竹 徹	乳腺外科	部長	33年	
田中 秀明	小児外科	部長	31年	
鈴木 弘行	甲状腺・内分泌外科	部長	33年	
高瀬 信弥	心臓血管外科	部長	34年	
藤井 正純	脳神経外科	部長	31年	
松本 嘉寛	整形外科	部長	28年	
小山 明彦	形成外科	部長	32年	
藤森 敬也	産科	部長	35年	
添田 周	婦人科	部長	26年	
佐藤 晶論	小児科	部長	27年	
佐野 秀樹	小児腫瘍内科	部長	29年	
石龍 鉄樹	眼科	部長	39年	
山本 俊幸	皮膚科	部長	35年	
小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	部長	28年	
室野 重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部長	31年	
三浦 至	精神科	部長	23年	
伊藤 浩	放射線科	部長	34年	
鈴木 義行	放射線治療科	部長	28年	
黒澤 伸	麻酔・疼痛緩和科	部長	36年	
橋本 優子	病理診断科	部長	31年	
金子 哲治	歯科口腔外科	部長	22年	
伊関 憲	救急科	部長	29年	
大内 一夫	リハビリテーション科	部長	32年	
志村 浩己	検査部	部長	38年	
濱口 杉大	総合診療	部長	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 大平 弘正	
管理担当者氏名	医療情報部長 岡部 直行	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二條の三第二項に	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	医療情報部
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二條の三第二項に	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課 経営企画室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療安全管理部
		高度の医療の研修の実績	教育研修支援課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携・相談室
	掲げる事項 規則第一條の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	保管場所となっている各部門において、電子媒体又は、紙媒体により管理・保管を行っている。
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
	医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全使用部会		
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況			
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			
	医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター		
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況			
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況				
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況				

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全使用部会
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	病院管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部等
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
管理者が有する権限に関する状況	病院管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 大平 弘正
閲覧担当者氏名	病院管理課長 吉田 紀之
閲覧の求めに応じる場所	きぼう棟3階 病院管理課
閲覧の手続の概要 閲覧の請求があった場合は、院内の規程に基づき諸記録の閲覧もしくは提供を行っている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための従事者に対する研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 (高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」、ガイドライン等を参考に実施することを含む。) 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の管理及び運営規定の策定・改正 2. 医療安全対策の承認、決定 3. 重大な問題が発生した場合の原因分析、改善策の立案と実施及び職員への周知 4. 医療安全に関するマニュアルの改訂 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： 職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部講師(国立大学法人北海道大学 北海道大学病院副病院長・医療安全管理部長)による医療安全に関する講話 2. 医療安全に関する最近の話題、医療機器、人工呼吸器関すること 3. 医療安全、医薬品、医療機器、感染管理、災害医療、情報セキュリティに関すること 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 当院で発生した事故を委員会に報告する。 2. 当院の「医療安全管理マニュアル」に従い事例の収集・分析を行う。把握された問題点について病院組織として改善策を策定し、必要に応じ実施状況を調査する。これらの情報は院内に周知を図っている。 3. 重大な事故発生の場合は、速やかに管理者へ報告する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染管理に関する基本的な考え方 2. 院内感染管理のための委員会等 3. 院内感染管理のための職員研修 4. 感染情報等に基づく院内感染管理を目的とした改善対策 5. 院内感染発生時等の対応 6. 患者等に対する本指針の閲覧 7. その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 毎月の耐性菌検出状況及び感染症発生状況報告、毎月のICTラウンド結果報告、指定抗菌薬長期使用者報告、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動報告、各種院内感染対策マニュアル改訂案の協議・承認、アウトブレイク事例・ICT介入事例報告 各種サーベイランス結果報告、職員研修実施状況報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 新採用者・中採用者・復職者研修：（標準予防策・感染経路別予防策職業感染予防策等の講義及び実習、感染対策の基本、スタンダードプリコーションと個人防護具、針刺し時の対応、抗菌薬適正使用について） 院内感染対策研修（外部講師）： <ul style="list-style-type: none"> 第1回 労働衛生コンサルタントからみた感染管理 第2回 薬剤耐性菌と抗菌薬適正使用の重要性について、適切な検体採取～検査の品質向上のために～ 第3回 PK/PDを意識した抗菌薬適正使用とバンコマイシンTDMについて、AmpC過剰産生大腸菌 医療安全・感染管理合同研修：感染症対策 新型コロナウイルス感染症 看護補助者（夜勤助手も含む）研修：病院環境清掃、COVID-19対策について E-learning：（標準予防策・感染経路別予防策について） 感染管理自己学習コース：マニュアル内容（総論、MDRP、MRSA、感染性胃腸炎、腸管出血性大腸菌感染症、新型コロナウイルス感染症）および8月発行ICT通信内容、ポケットマニュアル内容 BSI防止研修 新規採用者看護助手研修：病院で働くために行ってほしいこと NICU勉強会 小児科病棟勉強会 委託職員研修：感染予防の基礎知識等 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ICTラウンドによる現場状況チェックと改善指導・介入及び結果確認（定例：1回/週、その他耐性菌新規検出時随時ラウンド実施） 各種感染対策マニュアルの見直し・改訂作業 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬の使用状況把握と抗MRSA薬のTDM実施及びこれらに基づく抗菌薬コンサルテーションの実施 SSI/BSI/UTI/VAE/耐性菌のサーベイランスによる問題抽出と分析、対策のフィードバック COVID-19やインフルエンザ発生動向調査および院内曝露者への対策やベッドコントロール、面会制限等、アウトブレイク予防対策の実施 COVID-19対策の実施、クラスター対策の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) ダブルチェックについて（注射・内服薬準備時、麻薬の管理など） 2) 未承認医薬品及び、適応外使用に関する審査制度について 3) 医薬品を安全に使用するためには <ol style="list-style-type: none"> i: 日本医療機能評価機構「医薬品安全性情報」からの注意喚起とその解説 <ul style="list-style-type: none"> ・ カリウム製剤の投与方法間違い ・ バック型キット製剤の隔壁の未開通 ・ インスリンの単位について ・ 薬剤の中止の遅れによる手術・検査の延期 ・ 抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ ・ PTPシートの誤飲 ii: 当院のインシデント事例への対策について <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤のホチキス止めの禁止について ・ 抗がん薬のインシデントについて ・ 三文字検索による処方間違いについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、調剤室における医薬品管理、病棟・各部門への医薬品供給・管理、外来患者への医薬品使用・管理、入院患者への医薬品管理、 医薬品情報の収集・管理・周知、病院各部門の薬品管理、放射性医薬品の管理、 重大な有害事象の予防対応、事故発生時の対応、職員に対する教育・研修 等 手順書に従い実施している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤部 医薬品情報管理室が以下を担当する。 <ol style="list-style-type: none"> ①病棟担当薬剤師、調剤・注射担当薬剤師から医薬品の安全使用に係る情報を収集する。 ②緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、添付文書、インタビューフォーム等の医薬品の安全使用に関する情報の収集及び管理を行う。 ③PMDA（独）医薬品医療機器総合機構）等から収集した副作用情報等を必要に応じ、DIニュース等で院内各部門に提供している（DI：Drug Information）。 ④医薬品の適応外使用及び禁忌に該当する医薬品の仕様については、処方医と情報共有し適切に対応する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 245回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 輸液ポンプや人工呼吸器等、使用頻度の高い医療機器に関して医療安全管理合同研修会を年2回全職員に対し行っている。また、特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器（人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器等）を中心として各部署の要望に沿った研修を実施している。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器の始業時や終業時の日常点検と定期点検 点検報告書の作成と保管 外部委託点検の実施依頼 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやm3等の医療専門サイトを毎日確認し、重要なお知らせについては個別にメールが送られるよう登録し、情報の収集を行っている 周知が必要な情報や院内インシデントの事例に対する対策を周知するため、「臨床工学センターからのお知らせ」を作成し院内に配布し、安全性情報の伝達を行っている 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>「福島県立医科大学附属病院医療安全管理指針」により、医療安全管理責任者が、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括するものとしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(5名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部 医薬品情報管理室が以下を担当する。 ・ 病棟担当薬剤師、調剤・注射担当薬剤師から医薬品の安全使用に係る情報を収集する。 ・ 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、添付文書、インタビューフォーム等の医薬品の安全使用に関する情報の収集及び管理を行う。 ・ PMDA ((独) 医薬品医療機器総合機構) 等から収集した副作用情報等を必要に応じ、DIニュース等で院内各部門に提供している (DI : Drug Information)。 ・ 医薬品の適応外使用及び禁忌に該当する医薬品の使用については、処方医と情報共有し適切に対応する。 <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DIニュースを11回、DIニュース号外を11回発行した。 ・ 未承認医薬品、適応外医薬品の使用について医療安全ニュースで院内に周知している。 ・ 病棟担当薬剤師等からの報告は、未承認医薬品0件、適応外110件、禁忌7件であった。 <p>・ 担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 入院患者から無作為抽出をし、説明書・同意書点検を4月と10月に実施（令和6年度4月800件、10月800件、合計1,600件）した。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録については、「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」においては医療情報部長を管理責任者とし、管理方法を定め適切な管理を行っている。</p> <p>記載内容については、「福島県立医科大学附属病院診療録作成指針」を定め、これに沿った内容となっているかを、診療情報管理士が全ての退院患者の診療録についてチェック表を基に監査し、不備があった内容を各診療科に通知し、医師による修正を行っている。</p> <p>また、多職種による診療録の質的監査を行っており、医師診療記録、看護師記載記録、退院時要約についてわかりやすい診療録になっているか等の点検を実施し、点検結果について各診療科にフィードバックを行い、部署内で共有及び今後の対応を検討していただいている。</p> <p>診療録（電子カルテ）のサイバーセキュリティ、BCP等の対応として、昨年4月にサーバ、クライアント等のハードウェアの更新、今年3月にネットワーク機器の更新を行い最新化を実施している。また、ソフトウェア、VPN機器等の脆弱性情報を収集し、各メーカーと情報共有を行い対策の必要性を随時検討している。</p> <p>診療録（電子カルテ）のデータバックアップ（3世代管理）については日々院内（オフラインバックアップ含む）及び外部のデータセンターを活用して行っている。</p> <p>災害発生時やウイルス感染等が発生した際に対応については「システム障害対応マニュアル」を作成し、対応手順、連絡体制を定め、訓練についても実施し対応手順等の見直しを必要に応じて随時行っている。</p> <p>また、連絡体制については導入ベンダ及び、保守会社、医療機器メーカー等についても一覧化し管理している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（10）名、専任（0）名、兼任（12）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>他（事務職員）：専従5名、専任0名、兼任1名</p> <p>（臨床工学士）：専従0名、専任0名、兼任1名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理委員会及び同設置要綱に規定する各種委員会等の運営に関すること 2 医療安全管理マニュアルの改訂に関すること 3 インシデント情報の収集・整理に関すること 4 院内巡回に関すること 5 医療安全研修会に関すること 6 医療安全相談に関すること 7 褥瘡対策に関すること 8 院内死亡事例の調査に関すること 9 内部通報窓口に関すること 10 インフォームド・コンセントの適切な運用に関すること 11 有害事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認に関すること 12 前号に係る患者又はその家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること 13 医療安全に係る連絡調整に関すること 14 医療安全の確保のための対策の推進に関すること 15 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関すること 16 医療安全に関する職員の意識の向上の状況確認に関すること 17 その他医療安全に必要な業務に関すること <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

該当案件については、担当部門である「高難度新規医療技術評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、高難度新規医療技術評価委員会を開催し、その意見を踏まえ当該医療技術の提供の適否等について決定している。

当該医療技術の提供後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか担当部門が確認している。

令和6年4月から令和7年3月の間に4回委員会を開催し、新規申請案件1件の適否について審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（30件）、及び許可件数（26件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

未承認医薬品および適応外医薬品の使用の適否等を、申請に応じて審査をおこなう。承認後に使用された場合は、報告書の提出を受ける。また、規程の改訂等を随時おこなっている。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 349 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 40 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

毎月の死亡事例に対し医療安全管理部長・副部長の医師が電子カルテ・死亡診断書・サマリー等を調査する。判断に迷う場合等は医療安全管理部内で協議し、必要に応じて当該診療科・医療安全管理委員等の意見を参考にする。医療事故に該当する疑いがあると判断された場合は、当該科に医療クオリティ審議依頼書を提出してもらう。調査結果は、翌月の医療安全管理委員会にて報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：浜松医科大学医学部附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：新潟大学医歯学総合病院）・無）

・技術的助言の実施状況

- ① 管理者や医療安全管理責任者の医療放射線安全管理責任者との情報共有について
- ② 患者安全・医療安全管理に寄与する取組みに対する表彰について
- ③ 重篤な副作用情報の PMDA への報告件数アップについて
- ④ 高難度新規医療技術に関する患者説明文書ひな形改訂について

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「病院の患者等相談等受付要領」に従い、患者からの医療安全に関すること・医療事故に関する相談を受け付ける。また、医療連携・相談室で受けた患者からの相談に対して医療安全に関する対応が必要と判断された場合は、医療安全管理部に連絡をいただき、審議が必要な場合は医療クオリティ審議のうえ、結果を患者・家族に報告する。

相談内容と対応については、医療安全管理委員会で報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- 1 外部講師(国立大学法人北海道大学 北海道大学病院副院長・医療安全管理部長)による医療安全に関する講話
- 2 医療安全に関する最近の話題、医療機器、人工呼吸器関すること
- 3 医療安全、医薬品、医療機器、感染管理、災害医療、情報セキュリティに関すること
- 4 医薬品安全管理責任者の研修受講状況
2024年11月18日 令和6年度医薬品安全管理責任者等講習会
2024年12月9日 2024年度特定機能病院管理者研修（継続）
- 5 医療機器新規導入時研修 65回、医療機器定期研修 211回実施

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

病院管理者

研修名 2024 年度特定機能病院管理者研修 (初回・15 時間)

期 間 2025 年 1 月 15 日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全管理責任者

研修名 2025 年度特定機能病院管理者研修 (初回・13 時間)

期 間 2025 年 12 月受講予定

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

医薬品安全管理責任者

研修名 令和 6 年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会

期 間 2024 年 11 月 18 日

主催者 一般社団法人日本病院薬剤師会

研修名 2024 年特定機能病院管理者研修 (継続・6 時間)

期 間 2024 年 12 月 9 日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療機器安全管理責任者

研修名 2024 年度特定機能病院管理者研修 (継続 第 6 回・6 時間)

期 間 2024 年 12 月 9 日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG:Ver2.0(一般病院3)を2022年8月に受審し、条件付認定となった。その後、2023年9月に確認審査を受け、同年12月8日付けで条件付解除、正式に認定となった。(認定期間:2021年12月18日~2026年12月17日)

2025年4月15日改善審査を受審し、同年6月6日付け認定継続となった。(初回認定 平成18年12月)

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

受審後の評価に基づき、速やかにホームページ上で公表している。

なお、監査委員会の監査結果については、当院ホームページで公表している。

- ・評価を踏まえ講じた措置

評価内容を踏まえ、医療安全に向けた取り組みを引き続き継続して行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者 (3) 組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 福島県立医科大学ホームページで公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 福島県立医科大学ホームページで公表 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
竹石 恭知	附属病院長	○	選考会議に関する細則第3条第1項第1号に基づく役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
菅野 俊彦	事務局長		選考会議に関する細則第3条第1項第2号に基づく役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
藤森 敬也	医学部長		選考会議に関する細則第3条第1項第3号に基づく役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
高橋 香子	看護学部長		選考会議に関する細則第3条第1項第4号に基づく役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
矢吹 省司	保健科学部長		選考会議に関する細則第3条第1項第5号に基づく役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
佐藤 勝彦	福島県病院協会 会長		選考会議に関する細則第3条第1項第6号に基づく理事長推薦	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
寺島 由悟	福島県総務部 私学・法人課長		選考会議に関する細則第3条第3項第6号に基づく理事長推薦	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他病院の経営計画、運営管理の調整・協議</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>院内イントラネットにて周知</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大平 弘正	○	医師	病院長
小島 祥敬		医師	副病院長
藤井 正純		医師	副病院長
濱口 杉大		医師	副病院長
池添 隆之		医師	副病院長
二丹 玲子		看護師	副病院長
黒田 純子		薬剤師	薬剤部長
工藤 宇裕		事務職	事務局次長（業務）
菊池 健一		その他（外部）	法人理事（経営担当）
齋野 和則		事務職	病院長特別補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
病院の経営に関すること
病院の管理運営に関すること
病院の人事に関すること
病院の予算案の作成及び執行に関すること

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
5名の副院長が以下の各担当業務において管理者の職務を補佐する
 - 1 総務・企画・経営・臨床倫理・ダイバーシティに関すること
 - 2 業務担当の統括・中央診療施設の機能強化・災害医療に関すること
 - 3 教育・研修・感染制御・地域連携に関すること
 - 4 医療安全・臨床研究・治験・医療情報に関すること
 - 5 医療連携・患者サービス・病院機能改善に関すること

また、病院長特別補佐1名が、病院長が担当する業務を補佐する。

その他、法人理事（経営・内部統制担当）を病院の管理及び運営を行うための合議体に参画させ、意見等の聴取を行っている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

院内に「運営・管理部」を設置し、院内及び外部の専門研修等に参加させ、職員の育成に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無			
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 病院の業務状況について管理者等から外部委員へ報告し、委員が意見を述べること。 業務等についてどのように行われているか現場確認を行うこと。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページにおいて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
今野 修	福島県医師会	○	下記参照	有・無	1
安倍 孝祐	弁護士			有・無	1
山口 克彦	国立大学法人 福島大学			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2
<p>委員の選定理由</p> <p>今野 修：医療に係る安全管理に関する識見を有する者</p> <p>安倍 孝祐：法律に関する識見を有する者</p> <p>山口 克彦：医療を受ける者、その他医療従事者以外の者</p>					

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
地方独立行政法人法第13条第4項及び第5項の規定に基づく監事監査を行うとともに、
平成18年4月1日に監査室を設置し、内部監査を実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
ホームページにて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 月に1度開催する役員会において、附属病院の管理運営状況を監督している。 役員会においては、病院の月次決算を報告しているほか、予算・決算、組織・人事及び医療事故等については随時報告している。 ・ 会議体の実施状況（年13回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年13回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 ホームページにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年1件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>院内掲示により周知を図っている。</p>